

日本語（標準語、熊本方言）、韓国語、中国語、  
タガログ語、スペイン語における与格機能の類型論  
—semantic map を用いた研究—

言語学・応用言語学専門分野

2016(平成 28) 年入学

山本菜月

2020(令和 2) 年 1 月提出

## 要旨

本論文の目的は、semantic map を用いて、日本語（標準語、熊本方言）、韓国語、中国語、タガログ語、スペイン語における与格の機能を比較対照することにより、言語類型論的観点から、与格と呼ばれる格の多義性について一般化を示すことである。本論文では、議論の出発点として Haspelmath (2003) の提案する与格の semantic map ('A semantic map of typical dative functions') を検討することから始める（図 1）。

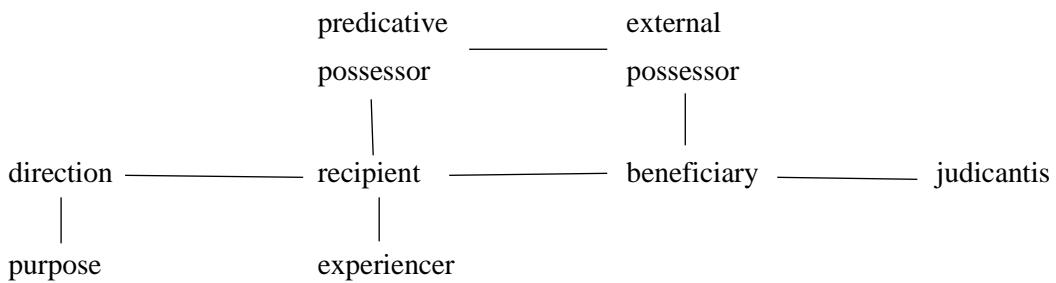


図 1. A semantic map of typical dative functions (Haspelmath 2003: 213; ただし一部修正)

図 1 は言語普遍的な与格の機能に関する一般化である。しかし、のちに示すように、本論文で検討した 6 言語の与格の機能を正しく位置付けるためには、図 1 を修正する必要がある。本論文が最終的に提示する新しい与格の semantic map を図 2 に示す。

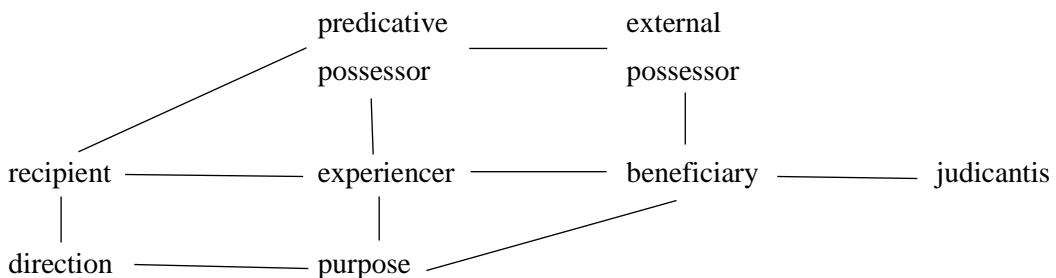


図 2. 与格に関する新しい semantic map

# 目次

0. はじめに.....	1
1. semantic map の導入 .....	1
1.1. 概観.....	1
1.2. 多義について .....	2
1.3. map 上の 8 の機能の同定 .....	4
1.4. 機能の配置について .....	5
2. 本論文の問題設定.....	5
2.1. H.map の問題点 .....	5
2.2. 調査方針 .....	6
2.3. 調査例文 .....	7
3. 調査した 6 言語の DATIVE .....	13
3.1. 日本語.....	13
3.1.1. 標準語 .....	13
3.1.2. 熊本方言 .....	14
3.2. 韓国語.....	17
3.3. 中国語.....	19
3.4. タガログ語.....	20
3.5. スペイン語.....	22
4. H.map の修正.....	23
4.1. 新たな map の提案 .....	23
4.2. 記述文法書データの検討.....	24
5. おわりに.....	27
6. 卷末資料.....	30
6.1. 日本語.....	30
6.1.1. 文法説明 .....	30
6.1.2. 調査回答 .....	33
6.2. 韓国語.....	38
6.2.1. 文法説明 .....	38
6.2.2. 調査回答 .....	43
6.3. 中国語.....	46
6.3.1. 文法説明 .....	46
6.3.2. 調査回答 .....	53

<b>6.4. タガログ語.....</b>	<b>56</b>
6.4.1. 文法説明 .....	56
6.4.2. 調査回答 .....	59
<b>6.5. スペイン語.....</b>	<b>62</b>
6.5.1. 文法説明 .....	62
6.5.2. 調査回答 .....	67
<b>参照文献.....</b>	<b>70</b>
<b>グロス一覧.....</b>	<b>72</b>

## 0. はじめに

本論文の目的は、semantic map を用いて、日本語（標準語、熊本方言）、韓国語、中国語、タガログ語、スペイン語における与格の機能を比較対照することにより、言語類型論的観点から、与格と呼ばれる格の多義性について一般化を示すことである。本論文では、議論の出発点として Haspelmath (2003) の提案する与格の semantic map ('A semantic map of typical dative functions') を検討することから始める。その結果、上記 6 言語の与格の機能を正しく位置付けるためには、Haspelmath (2003) の semantic map を修正する必要があることを論じる。本論文では、修正を加えた新しい与格の semantic map を提案する。

## 1. semantic map の導入

この章では、semantic map という言語類型論の記述モデルを導入する。以下では、Haspelmath (2003) が提示する与格の semantic map (=図 1) を 'H.map' と呼ぶ。

### 1.1. 概観

semantic map とは、一言で言えば多義を扱う言語間比較のモデルである。多義的であるとされる形式の意味機能について、言語普遍的に認められると想定できる意味機能を明確に定め、それらの構成するネットワークを図示したモデルである (Haspelmath 2003)。以下の H.map はその代表的な例であり、様々な言語で「与格」と呼ばれる格が持つ様々な多義のパターンについての言語間比較と一般化を可能にしている。H.map は、与格という格が関与する様々な意味 (recipient, experiencer など) のうち、言語普遍的な意味機能として 8 の機能を認め、これらを地点のように配置する。コネクタで繋がっている地点同士は意味的な近接性があると想定する。このようなモデルによって、例えば「ある言語の与格が experiencer と purpose の機能をカバーするなら、recipient, direction もカバーする」といった様々な含意普遍を導くことができる。

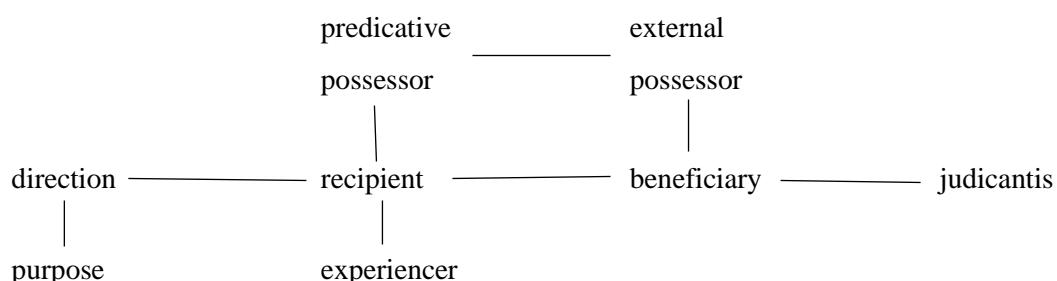


図 1. A semantic map of typical dative functions (Haspelmath 2003: 213; ただし一部修正)

以下では、H.map が (a) のようにして与格の多義性を扱っているか、(b) 言語普遍的とされる 8 の機能がどのようにして定められるか、そして (c) なぜ上記のような配置をなすのかについて、Haspelmath (2003) をもとに簡単に述べる。

## 1.2. 多義について

与格は、一般言語学的に広く理解されるところでは recipient を表すのに使われる格を指すが（長屋 2015 等）、ほとんどの言語では recipient だけでなくその他様々な意味を表すことが知られる。すなわち、個々の言語で与格と呼ばれる格は多義的であることが普通である。例えば、英語の与格である *to* は以下のようないくつかの機能をカバーすることで知られる。

### (1) 英語の前置詞 *to*

- a. *Goethe went to Leipzig as a student.* (direction)
- b. *Eve gave the apple to Adam.* (recipient)
- c. *This seems outrageous to me.* (experiencer)
- d. *I left the party early to get home in time.* (purpose)

[Haspelmath 2003: 212: (2) ]

英語 *to* の機能を H.map にプロットすると図 2 のようになる。

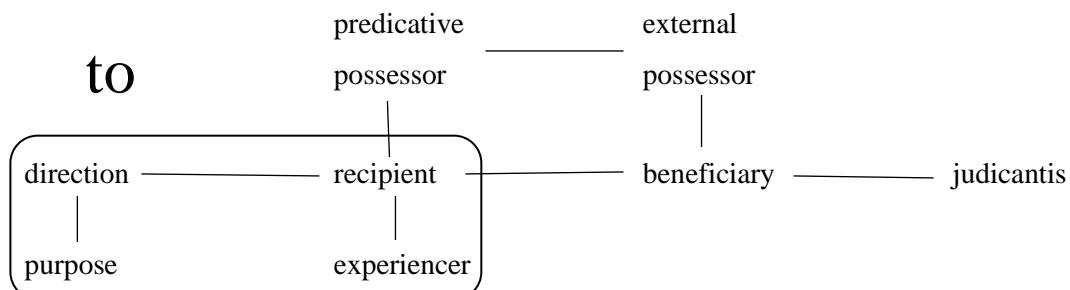


図 2. 英語 *to* が担う領域 (Haspelmath 2003: 213: FIG. 8.1 より引用)

フランス語の与格は à である。これも多義的であって、以下の (2) のような機能をカバーする。

(2) フランス語の前置詞 à

- a. *Maria va à la librairie.*  
 マリア 行く.3.SG.PRES DAT ART 本屋  
 「マリアは本屋に行く。」 (direction)
- b. *Eve donnez une pomme à Adam.*  
 イヴ 与える.3.SG.PRES ART りんご DAT アダム  
 「イヴはアダムにリンゴを与える。」 (recipient)
- c. *Le chien fait peur à Maria.*  
 ART 犬 作る.3.SG.PRES 恐れ DAT マリア  
 「犬がマリアを怖がらせる。(lit. 犬はマリアに恐ろしい。)」 (experiencer)
- d. *Ce chien est à moi.*  
 DEM 犬 COP.3.SG.PRES DAT 1.SG  
 「この犬は私なのだ。(lit. この犬は私にある。)」 (predicative possessor)  
 [a~c は作例。d は Haspelmath 2003: 215]

前置詞 à は、direction, recipient, experiencer, predicative possessor の 4 つの機能を有する。図 3 に、フランス語 à が担う領域を示す。

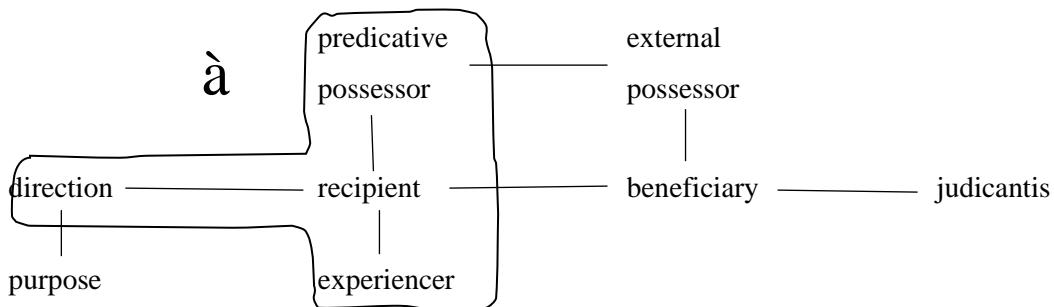


図 3. フランス語の前置詞 à が担う領域 (Haspelmath 2003: 215: FIG. 8.2 より引用)

日本語標準語の「に」格 (3.1.1 節) は、英語やフランス語よりも幅広い機能をカバーしていることがわかる (図 4)。さらに、H.mapにおいて与格の機能の 1 つとされている direction については、「へ」格 (方向格) も使われることがわかる。

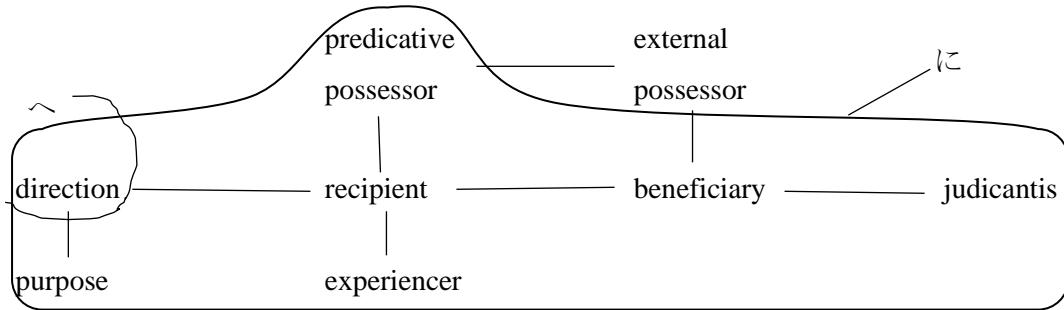


図 4. 日本語標準語の「に」と「へ」が担う領域

### 1.3. map 上の 8 の機能の同定

map 上に配置されているそれぞれの地点（言語普遍的と想定できる意味機能）は、アプリオリに設定されるのではなく、帰納的に、具体的には「言語間比較を通して」得られるものである。英語とフランス語の与格を引合いに出してこのことを説明する。今、英語の *to* の機能に目を向けると、Haspelmath が direction, recipient, purpose, experiencer と仮に名付けた機能 4 つをカバーする形態素であることがわかる。しかし、英語だけを見ていてはこれら 4 つを言語普遍的な機能として区別できるかどうかは不明なままである。それは、*to* という形式がこれらを区別せずカバーするからである。この事実だけをもとにすれば、これら 4 つをより抽象的なレベルで 1 つの機能にまとめられる可能性の方が高いとさえ言える。

ここで、フランス語の *à* を考察すると、この形態素は英語の *to* の考察において purpose と名付けた機能をカバーできないことがわかり、また英語の *to* がカバーできない predicative possessor をカバーできることがわかる。英語とフランス語の比較を行ったことで、英語のみの考察で得られた 1 つの可能性、すなわち direction, recipient, purpose, experiencer という機能が区別できない 1 つの抽象的な言語普遍的機能として存在している可能性、が排除できる。仮にそのような普遍的機能があるのなら、フランス語で（分かち難い 1 つの機能であるはずの 4 つの中から) purpose だけを表せないという状況は生じ得ないはずだからである。

ここで初めて、purpose という機能が、他の 3 つの機能から「分離」できるということがわかる。全く同様の理屈で、predicative possessor は英語の *to* では表せない機能であるとして、*à* の機能 (predicative possessor, recipient, experiencer, direction) から「分離」できる。このようにして、purpose と predicative possessor という 2 つの機能を、通言語的には確かに区別すべきものであるとして map に配置できるのである。このような作業を、他の言語データも使って繰り返し行うことで、H.map の 8 つの機能が指定されることとなった。

なお、Haspelmath (2003: 217) は 12 言語を対象とすれば安定した semantic map を作成できるだろうと主張しているが、実際に何言語を対象として H.map を作成したのかは明らか

にしていない。

#### 1.4. 機能の配置について

semantic map では、map 上の全ての機能が多義のネットワークをなしていると想定する。すなわち、定義上、ある機能が 1 つの semantic map を構成するものである以上、どの機能とも孤立して存在することはありえない。例えば、与格の semantic map を構成する機能が 3 つ（今、任意に purpose, direction, recipient の 3 つ）ある場合には、その配置パターンは 3 種類（ある機能が別の 1 つの機能とだけ繋がっているパターン 2 つ、両方と繋がっているパターン 1 つ）となる。

- (3) a. purpose —— direction —— recipient
- b. direction —— purpose —— recipient
- c. direction —— recipient —— purpose

[Haspelmath 2003: 217: (4) ]

このネットワークの配置は、3 つの機能が単に多義を構成するものである、と捉えることと大きく異なっている点に注意されたい。仮に 1 つの言語の与格が、purpose, direction, recipient の 3 機能のうち 2 つの機能を持つ、という場合、その組み合わせは機械的に  ${}_3C_2 = 3$  通りあることになる。しかし、例えば (3a) のモデルからは、ある言語の与格が purpose と direction の機能をもち recipient の機能を持たないという状況はあり得るが、purpose と recipient の機能を持ち direction の機能を持たない、という状況はあり得ないと予測する。なぜなら、多義は意味的に近接したものに限られる（コネクタで繋がっているもの同士に限られる）という制限がかかるからである。

配置が言語普遍的であるという想定にたつと、このいずれの配置パターンが最適かは、言語間比較で簡単にわかる。最適な配列は (3a) である。(3b) は、図 3 からわかるようにフランス語の前置詞 *à* は purpose の機能を持たないため不適格である。(3c) は、recipient の機能を持たないドイツ語の前置詞 *zu* によって不適格である。残った (3a) は、英語のみならず、フランス語の *à* の機能 (direction と recipient) も、ドイツ語の *zu* の機能 (purpose と direction) もつながりも示すことが出来る。このように、最適な配列を見つけ出すためには、言語を比較検討していくことが必要になる。

## 2. 本論文の問題設定

### 2.1. H.map の問題点

1 章で述べたように、H.map は通言語的かつ普遍的に成立すると想定される。しかし、個別言語のデータを見ていくと、この map に矛盾するデータが見つかる。例えばスペイン

語である。詳しくは 3.5 節で述べるが、筆者が行った調査の結果、スペイン語は H.map の諸機能を 2 つの前置詞でカバーするが（図 5）、このうち *para* は *beneficiary* と *judicantis* という隣接した意味機能をカバーするだけでなく、*purpose* もカバーする。ここで、*para* が、*beneficiary* の左側の *direction* と *recipient* を飛び越えて *purpose* をカバーする点が問題となる。

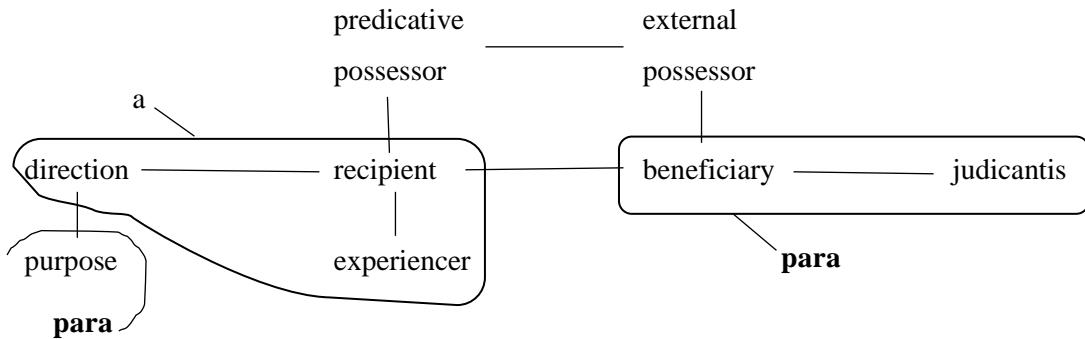


図 5. スペイン語の *a* と *para* が担う領域

上記以外にも H.map の問題点を指摘することができるが、詳細については 3 章でデータを提示しながら議論する。

## 2.2. 調査方針

筆者は、日本語標準語、日本語熊本方言、韓国語、中国語、タガログ語、スペイン語を母語とする話者を対象に、2.3 節に示す表 1 の調査例文を用いて、H.map 上の 8 機能を担う形態を調査した。そして、それらを H.map 上にマッピングし、各機能の位置関係に問題がないかどうかを各言語で確認した。

本論文で筆者が注目しているのは「H.map 上の機能の種類」ではなく、「H.map の配列／配置」であることを再確認しておく。故に、本論文の与格の定義は (4) で事足りる（斜格の定義は後述）。

(4) H.map 上の 8 機能をどれか 1 つでも満たす形態素を DATIVE とする。

（ただし斜格に限る。）

(4) の定義を採用する理由は 2 点ある。1 点目は、H.map の配列の修正が最終目的であるため、与格の機能を H.map 上の 8 機能に限定した方が調査しやすい点である。2 点目は、「どういう格を設定し、それらをどう呼ぶかは個別言語（の伝統）によって当然異なる。」（長屋 2015）とあるように、あらゆる言語に適用可能な与格の定義づけが困難である点が挙げ

られる。なお、(4) の定義により複数の形態素が H.map にマッピングされる可能性があるが、それらはすべて DATIVE とみなす。例えば、recipient を X という形態素で表し、direction を Y という形態素で表すような言語の場合、X も Y も DATIVE である。繰り返しになるが、注目しているのは「H.map の配列／配置」であるから、DATIVE が複数個あっても問題視しない。

なお、DATIVE という用語を斜格に限定する点について、言語によっては H.map の機能を直接格（主語・直接目的語に用いる格）がカバーすることもありうる。例えば日本語では、主格の「が」が experiencer をカバーする（例「私が雷を恐れる（とき）」）。しかし、本論文ではあくまで斜格で experiencer をカバーする場合（日本語では「に」）を DATIVE と呼ぶ。

### 2.3. 調査例文

調査に用いた例文を挙げる。日本語を話せる話者（日本語、韓国語、中国語の話者）と、日本語は話せないが英語は話せる話者（スペイン語、タガログ語の話者）がいたため、例文は日本語と英語の両言語分用意した。なお、日本語例文の下線は通言語的に与格で表される部分を示している。（ちなみに、調査の際、人名や時制は必ずしも表 1 の通りではなかった。人名はその言語における典型的な名前に、時制は、話者が回答しづらい時には変更した。）

表 1. 調査例文

	機能名	例文	
		日本語	英語
a	direction	私は毎日学校に行く。	I go to school every day.
b	recipient	私はジョンにペンをあげた。	I gave a pen to John.
c	experiencer	i) 太郎はカレーが好きだ。	Taro likes carry.
		ii) 太郎がカレーが好きであること を知っていますか。	Do you know Taro likes carry?
		iii) 太郎にはその声が聞こえた。	Taro heard the voice.
		iv) 太郎は車が欲しい。	Taro wants a car.
		v) 太郎は次郎を羨んでいる。	Taro envys Jiro.
d	purpose	私は新車を買うために節約してい る。	I save money to buy a car.
e	beneficiary	私はジョンに自転車を買ってあげ た。	I bought a bike for John.
f	judicantis	この部屋は太郎には暑い。	This room is too hot for Taro.
g	predicative possessor	i) 太郎は貴重な本を持っている。	Taro has a precious book.
		ii) 太郎は風邪をひいている。	Taro is sick.
		iii) 太郎には(一人)妹がいる。	Taro has a sister.
		iv) メアリーは青い目をしている。	Mary has blue eyes.
h	external possessor	i) 私が太郎の手をとった。	I took Taro's hands.
		ii) 花子が髪が長い。	Hanako's hair is long.

direction, recipient, purpose, beneficiary, judicantis (group1 とおく) の例文は、基本的に Haspelmath (2003) の例文をベースとして作成した。experiencer, predicative possessor, external possessor (group2 とおく) の例文は、Haspelmath (2003) および石塚 (2015)、Stassen (2013)、Deal (2013) も参照しつつ、筆者が作成した。以下では、日本語標準語を例に一つ一つの機能の説明<sup>1</sup>を行い、例文の妥当性を述べる。

まず、group1 から説明する。

direction とは移動の方向を指す。(5) では、形態素「に」によって、「私」が「学校」の方向へ移動していることが表現されている。

<sup>1</sup> Haspelmath (2003) は各機能の説明をしていない。

(5) 【direction】

私は毎日学校に行く。

[表 1a. 再掲]

*recipient* とは、モノの受け手を指し、いわゆる三項動詞文（主語、直接目的語、間接目的語の三項を要求する動詞を使った文）における間接目的語に相当する。（6）では、「ペン」が「私」から「ジョン」の方へ移動している（つまりジョンはペンを受け取っている）ことが、形態素「に」によって表現されている。

(6) 【recipient】

私はジョンにペンをあげた。

[表 1b. 再掲]

*purpose* とは、ある動作の目的を指す。（7）は、「節約する」目的が「新車を買う」ことであることが分かる。英語ではしばしば *to / so as to / in order to* などによって表される。

(7) 【purpose】

私は新車を買うために節約している。

[表 1d. 再掲]

*beneficiary* とは、恩恵を受ける者を指す。（8）では、形態素「に」により、「ジョン」が「自転車」をもらって恩恵に授かっていることが表されている。

(8) 【beneficiary】

私はジョンに自転車を買ってあげた。

[表 1e. 再掲]

*judicantis* とは、判断者を表す（中山 2007）。古典ラテン語において、*judicantis* の用法を与格が担う文が見られる。（9）はラテン語であり、「美しい」という判断をした「多くの人」が与格標示されている。

(9) *Quintia formosa est multis.*

クイーンティア 美しい.3.SG.NOM COP.3.SG.NPST 多くの.3PL.DAT

「クイーンティアは多くの人の目には美しい。」

[中山 2007: 202; グロス表記は筆者による。]

Haspelmath (2003) における例文は以下である。*'for'* が判断者のマーカーになっており、*'for'* を *'to'* に変えることはできない。

- (10) *That's too warm for me.* (\**That's too warm to me.*)

「私にはとても暑い。」

[Haspelmath 2003: 213; 和訳は筆者による。]

(9)(10) を参考にし、調査例文では (11) を用いた。

- (11) 【judicantis】

この部屋は太郎には暑い。

[表 1f. 再掲]

次に、group 2 について説明する。まず *experiencer* とは、何かを感じたり、知覚したり、認識したりする主体を指す (石塚 2015)。(12) は「春子」を *experiencer* とする例である。

- (12) 春子には富士山が見えた。

[石塚 2015: 12]

主体が *experiencer* に相当し得る述語には、知覚動詞 (聞こえる、見えるなど) や感情述語 (恐れる、喜ぶ、好き、怖い、羨ましいなど) が挙げられる。述語の品詞と意味の幅の広さから、この機能に該当する例文数は 5 と最多である。

- (13) 【experiencer】

- i) 太郎はカレーが好きだ。
- ii) 太郎がカレーが好きであることを知っていますか。
- iii) 太郎にはその声が聞こえた。
- iv) 太郎は車が欲しい。
- v) 太郎は次郎を羨んでいる。

[表 1c. 再掲]

*predicative possessor* の典型的な例文は、Keidan (2009) によると (14a, b) のような例文である。(14a) は英語、(14b) はロシア語の例である。

- (14) a. Have [Pr subj + Pe obj]

'John has a book.'

[Keidan 2009: 341: (1)]

b. Be [Pe subj + Pr obl]

U        *Ivana*        *est* '        *kniga.*  
Near     Ivan            is              book.  
'Ivan has a book.'

[Keidan 2009: 341: (2) ]

通言語的に見ると、predicative possession は 'have-possessives' と 'existential-possessives' に大別できる。前者は英語の have が使われる所有表現方法、後者は英語でいう be や exist が使われるそれである。'Have', 'Be' は、どちらのタイプなのかを示す記号で、各括弧の 'Pr', 'Pe' はそれぞれ「所有者 (Possessor)」、「被所有者 (Possessee)」を表している。本論文では、Keidan (2009) を参考に、'predicative possessor の例文として 'Have-possessives' 型の (15i) と 'Existential-possessives' 型の (15ii) を作成した。

(15) 【predicative possessor】

- i) 太郎は貴重な本を持っている。  
ii) 太郎は風邪をひいている。

[表 1g. 再掲]

さらに、Stassen (2013) を参考に 'Locational-possessives' 型の例文も作成した。これは (2d) に示すような、通言語的に Pe が主語、Pr が in, on, at などで表される文である。日本語で表すと主題の要素も入り込むが、'Topic-possessives' 型も predicative possessor を示す構文の一つと見なされる (Stassen 2013) ので、(16) は 'Locational-possessives' 型と 'Topic-possessives' 型が合体したものと捉えることができる。

(16) 【predicative possessor】

- iii) 太郎には (一人) 妹がいる。

[表 1g. 再掲]

その他、日本語特有の所有表現「～している」型の例文も調査対象とした。

(17) 【predicative possessor】

- iv) メアリーは青い目をしている。

[表 1g. 再掲]

external possessor とは、Deal (2013) の定義によれば、「ある名詞が統語的には動詞に従属しているものと見なされ、しかし意味的には共起した項の所有者と理解される現象である。 ('External possession is a phenomenon where a nominal is syntactically encoded as a verbal dependent but semantically understood as the possessor of one of its co-arguments.') (和訳は筆者による。)」 (Deal 2013: 1) である。(18) は external possessor の例文で、(18a) がフラ

ンス語、(18b)が日本語である。(18a)では与格(lui)が、(18b)では主格(Mary-gaの方のga)が、所有者と解釈されると共に動詞に従属している。

(18)	a.	<i>Je</i>	<i>lui</i>	<i>ai</i>	<i>pris</i>	<i>la</i>	<i>main.</i>
		I	[3.SG.DAT]	have	taken	[the	hand]
			[所有]			[被所有]	

'I took his hand.'

b.	<i>Mary-ga</i>	<i>kami-ga</i>	<i>naga-i.</i>
	[Mary-NOM]	[hair-NOM]	long-be
	[所有]	[被所有]	

'Mary's hair is long.'

[Deal 2013: 2: (1a)(1b); 各括弧付加は筆者による。]

(18)を参考に、以下の例文を調査に用いた。

(19) 【external possessor】

- i) 私が太郎の手をとった。
- ii) 花子が髪が長い。

[表 1h. 再掲]

なお、(18)の意味に相当するものに(20)がある。この所有表現は Internal possession と呼ばれる。統語的に所有名詞が被所有名詞の従属物であると見なされ、名詞所有句を形成する。

(20)	a.	<i>J'ai</i>	<i>pris</i>	<i>sa</i>	<i>main.</i>
		I-have	taken	[his	hand]
				[所有]	[被所有]

'I took his hand.'

b.	<i>Mary-no</i>	<i>kami-ga</i>	<i>naga-i.</i>
	[Mary-GEN]	[hair-NOM]	long-be
	[所有]	[被所有]	

'Mary's hair is long.'

[Deal 2013: 2: (2a)(2b); 各括弧付加は筆者による。]

次章で DATIVE を分析していく際、Internal possession に該当するものは DATIVE とみなさない。

### 3. 調査した 6 言語の DATIVE

本章では、日本語標準語、日本語熊本方言、韓国語、中国語、タガログ語、スペイン語の 6 言語を対象に、調査結果を示す。

#### 3.1. 日本語

##### 3.1.1. 標準語

標準語のデータは筆者の内省による。表 2 に、左側に機能名、中央に DATIVE、右側に DATIVE の分析から外した形態素 (以下、「non-DATIVE」と呼ぶ) を示す。表のアルファベットおよびラテン数字は表 1 に対応している。異なる DATIVE があった場合、丸囲み数字で通し番号を振った。なお、各言語で同じ形式の表を用いる。

表 2. 日本語標準語の DATIVE および non-DATIVE

機能名	DATIVE	non-DATIVE
a. direction	に (①) 、へ (②)	
b. recipient	に	
c. experiencer	に (iii)	は (i, iv, v) 、が (ii)
d. purpose	に	
e. beneficiary	に	
f. judicantis	に	
g. predicative possessor	に (iii)	は (i, ii, iv)
h. external possessor		の (i) 、が (ii)

「は」は格を表さず、「が」は斜格でない (6.1.1 節参照。) ことから non-DATIVE とした。それぞれの例文を 1 つずつ挙げる。

(21) non-DATIVE: 「は」

太郎は次郎を羨んでいる。

(22) non-DATIVE: 「が」

太郎がカレーが好きなことを知っていますか。

(h.i) の「の」は、Internal possession に当てはまるので DATIVE に含めない。[太郎の手]

は所有句となっている。

- (23) non-DATIVE: 「の」

私は [太郎の手] を取った。

表 2 の DATIVE を H.map にマッピングしたものが図 6 である。

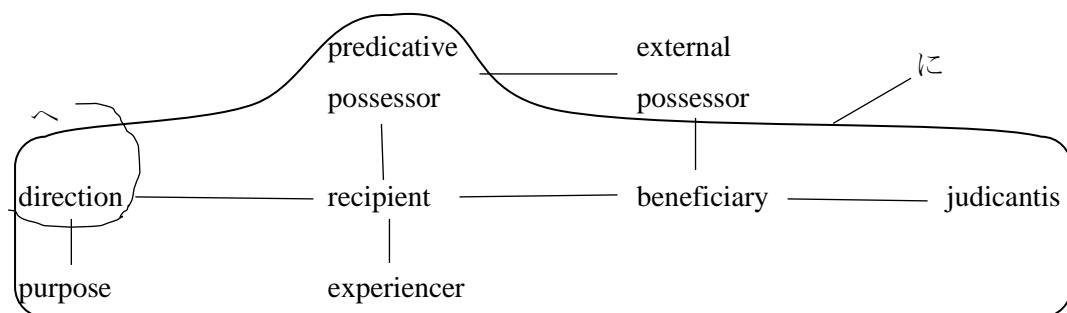


図 6. 日本語標準語の DATIVE (H.map にマッピング)

図 6 に示すように、日本語標準語の DATIVE は H.map によって説明できる。

### 3.1.2. 熊本方言

熊本方言は、I 氏、Y 氏 2 名の話者にご協力いただいた。表 3 に DATIVE および non-DATIVE を示す。表 3 の「×」は、DATIVE が出現すると予測される部分に形態素が表れなかったことを表している。例として、「×」とした (c.i) を挙げる。

- (24) *anohito*      *kareega*      *suitorasumon.*  
ano=hito                karee=ga                su-i-tor-ras-ru=mon  
DEM=人                    カレー=NOM                好き-THM-PF-HON-NPST=DSC

「あの人はカレーが好きだ。」

(24) のような場合は、DATIVE から除外した。

表3. 日本語熊本方言の DATIVE および non-DATIVE

機能名	DATIVE	non-DATIVE
a. direction	に (①) 、 さん (②)	
b. recipient	に	
c. experiencer	に (iii ①②)	× (i) 、 が (ii、 iv ②) 、 の (iv ①) 、 は (v)
d. purpose		けんが
e. beneficiary	に	
f. judicantis	に	
g. predicative possessor		は (i) 、 の (ii) 、 × (iii、 iv)
h. external possessor		が (i) 、 の (ii)

斜格でない、という理由から non-DATIVE とした形態素は「が」、c および g の「の」、「は」、「けん」である。熊本方言は主語を標示するのに「が」や「の」といった格が用いられる（坂井 2019: 37）。よって、これらは斜格として扱わない。

(25) non-DATIVE: 「が」

<i>tarooga</i>	<i>hanakoba</i>	<i>sukitte</i>	<i>uwasawa</i>
<i>taroo=ga</i>	<i>hanako=ba</i>	<i>suki=tte</i>	<i>uwasa=wa</i>
太郎=NOM	花子=ACC	好き=QT	噂=TOP

*hontoojattattai.*

*hontoo=jar-ta=to=tai*

本当=COP-PST=FMN=DSC

「太郎が花子を好きって噂は本当だったんだね。」

(26) non-DATIVE: 「の」

<i>sjuntjanno</i>	<i>kaze</i>	<i>hiitorasu.</i>
<i>sjun-tjan=no</i>	<i>kaze</i>	<i>hik-i-tor-ras-ru</i>
俊-DIM=NOM	風邪	ひく-THM-PF-HON-NPST

「俊ちゃんが風邪をひいている。」

「は」は格ではなく主題を示すマーカーである。

- (27) non-DATIVE: 「は」

<i>utino</i>	<i>kowa</i>	<i>mezurasika</i>	<i>honba</i>
uti=no	ko= <u>wa</u>	mezurasi-ka	hon=ba
1.SG=GEN	子=TOP	めずらしい-NPST	本=ACC

<i>taigja</i>	<i>mottorasumon.</i>
taigja	mot-tor-ras-ru=mon

たくさん 持つ-PF-HON-NPST=DSC

「私の子はめずらしい本をたくさん持っているよ。」

「けんが」は理由を意味する接続詞である。格ではない。

- (28) non-DATIVE: 「けんが」

<i>kurumano</i>	<i>kawasukenga</i>
kuruma=no	kaw-ras-ru= <u>kenga</u>

車=NOM 買う-HON-NPST=REASON

*tamejorasutotai.*

tame-jor-ras-ru=to=tai

貯める-IPF-HON-NPST=FMN=DSC

「(あの人は) 車を買うから(お金を)貯めている。」

Internal possession に該当することから、(h) 「が」、「の」は non-DATIVE とした。(h.i) のみ例を挙げておく。[oregate (「俺が手」)] は所有句である。

- (29) non-DATIVE: 「が」

<i>ora</i>	<i>orega</i>	<i>teo</i>	<i>arau.</i>
ore=wa	[ore= <u>ga</u>	te]=o	araw-u
1.SG=TOP	1.SG=GEN	手=ACC	洗う-NPST

「私は私の手を洗う。」

表3のDATIVEをH.mapにマッピングしたものが図7である。

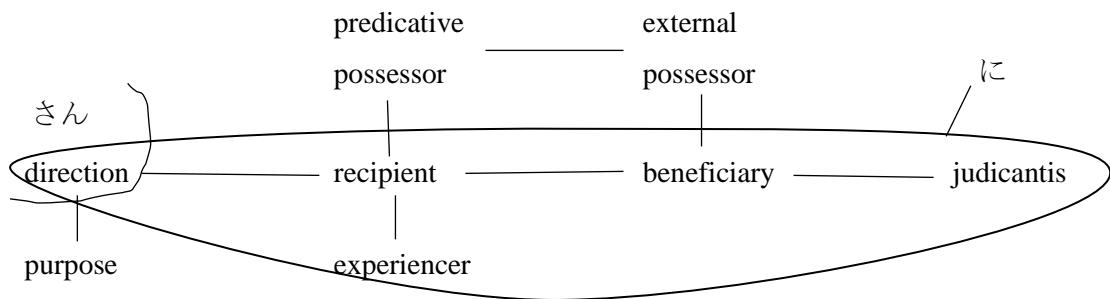


図 7. 日本語熊本方言の DATIVE (H.map にマッピング)

熊本方言の DATIVE も、H.map によって説明できる。

### 3.2. 韓国語

韓国語のデータ収集は、P 氏にご協力いただいた。DATIVE および non-DATIVE を以下に示す。

表 4. 韓国語の DATIVE および non-DATIVE

機能名	DATIVE	non-DATIVE
a. direction	에	
b. recipient	에게 (①) 、 한테 (②)	
c. experiencer	에게 (iii ①②) 、 한테 (iii ③)	는 (i、 iv、 v) 、 가 (ii)
d. purpose		기위해서
e. beneficiary	에게 (①) 、 한테 (②)	
f. judicantis	한테	
g. predicative possessor		는 (i~iv)
h. external possessor		의 (i) 、 는 (ii)

「가」は主語を標示する格助詞であり、斜格に含めない。(c.ii) を例に出す。

(30) non-DATIVE: 「가」

영희 <u>가</u>	카레를	좋아하는	것을
yenghuy= <u>ka</u>	khaley=lul	cohaha=nun	kes=ul
ヨンヒ=NOM	カレー=ACC	好き=ADN	こと=ACC

알고있습니까?

alkoissupnikka?

知っているか

「ヨンヒがカレーが好きであることを知っていますか。」

「는」は主題を表すマーカーである。格ではないため、斜格とはみなさない。

(31) non-DATIVE: 「는」

영희 <u>는</u>	여동생	한명이	있다.
yenghuy= <u>nun</u>	yetongsayng	hanmyeng=i	issta
ヨンヒ=TOP	妹	一人=NOM	いる

「ヨンヒには一人妹がいる。」

「기위해서」は動詞接辞で、格ではない。

(32) non-DATIVE: 「기위해서」

나는	새차를	사 <u>기</u> 위해서	절약하고있다.
na=nun	saycha=lul	sa- <u>kiwuihayse</u>	celyakhakoissta
1.SG=TOP	新車=ACC	買う-PURP	節約している

「私は新車を買うために節約している。」

(h.i) の「의」は、所有句を形成する助詞で Internal possession に該当する。

(33) non-DATIVE: 「의」

나는	[영희의]	손]을	잡았다.
na=nun	[yenghuy=u <sub>y</sub>	son]=ul	capa-ssta
1.SG=TOP	ヨンヒ=GEN	手=ACC	つかむ-PST

「私がヨンヒの手をとった。」

表 4 の DATIVE を H.map にマッピングしたものが図 8 である。

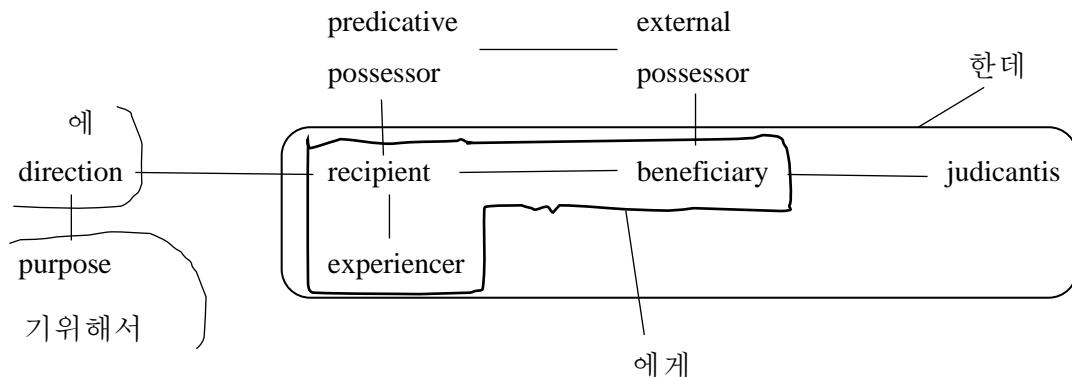


図 8. 韓国語の DATIVE (H.map にマッピング)

韓国語の DATIVE も、H.map によって説明できる。

### 3.3. 中国語

データ収集には、台湾中国語話者の L 氏にご協力いただいた。表 5 に DATIVE および non-DATIVE を示す。

表 5. (台湾) 中国語の DATIVE および non-DATIVE

機能名	DATIVE	non-DATIVE
a. direction		ϕ
b. recipient		ϕ
c. experiencer		ϕ (i~v)
d. purpose	為了	
e. beneficiary	給	
f. judicantis	對--來說	
g. predicative possessor		ϕ (i~iii) 、 的 (iv)
h. external possessor		的 (i, ii)

non-DATIVE 欄の ϕ は、DATIVE が出現すると予測される部分に何の形態素も現れないことを示している。中国語は S、A、P 全て格標示がなされない (6.3.1 節参照。) ため、ϕ は分析の対象としない<sup>2</sup>。 ϕ の代表として回答 (a) を挙げる。

<sup>2</sup> 熊本方言の「×」とは区別する。

(34) non-DATIVE:  $\phi$

我 每天 (都 會) 去 學校。  
1.SG 每日 (いつも PROSP) 行く 学校  
「私は毎日学校に行く。」

(g)(h) の「的」は、Internal possession と解釈し、non-DATIVE とした。 (h.ii) の回答を挙げる。

(35) non-DATIVE: 「的」

[陳小明 的 頭髮] 很 長。  
[陳小明 GEN 髮] 非常に 長い  
「陳小明の髪が長い。」

表 5 の DATIVE を H.map にマッピングしたものが図 9 である。

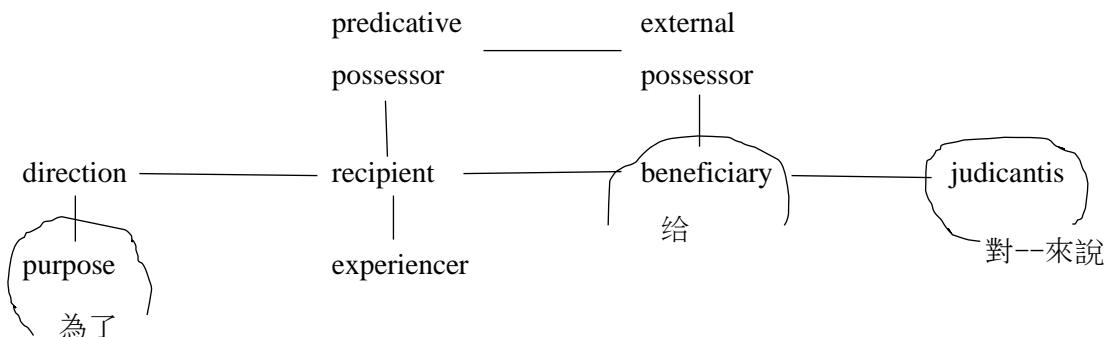


図 9. 中國語の DATIVE (H.map にマッピング)

中国語の DATIVE も、H.map によって説明できる。

### 3.4. タガログ語

タガログ語は話者の R 氏にご協力いただきデータを集めた。DATIVE および non-DATIVE を以下に示す。

表 6. タガログ語の DATIVE および non-DATIVE

機能名	DATIVE	non-DATIVE
a. direction	sa	
b. recipient	si	
c. experiencer		ni (i, iii, iv) , si (v)
d. purpose	para (①) , upang (②)	
e. beneficiary	para kay	
f. judicantis	para kay	
g. predicative possessor		si (i~iv)
h. external possessor		ni (i, ii)

c と g の例文は斜格でないことから全て non-DATIVE としている。 (c.iv) の ni、 (g.iii) の si は、いずれも主語 (A) を標示する標識である。 (6.4.1 節参照。)

(36) non-DATIVE: 「ni」

Gusto	<u>ni</u>	John	ng	sasakyan.
Gusto	<u>ni</u>	John	ng	sasakyan.
want	GEN	John	GEN	car

'John wants a car.'

(37) non-DATIVE: 「si」

Mayroong	kapatid	<u>si</u>	John.	
Mayroon- <u>ng</u>	kapatid	<u>si</u>	John.	
have-LIN	brother	SPEC	John	

'John has a brother.'

(h) の「ni」は所有句を形成するもので、Internal possession と解釈できる。

(38) non-DATIVE: 「ni」

Kinuha	ko	ang	kamay <i>ni</i>	John.
k-in- <u>uha</u>	ko	ang	kamay- <u>ni</u>	John
PV.R.PF.get	1.SG.GEN	SPEC	hand-LIN	John

'I took John's hand.'

表 6 の DATIVE を H.map にマッピングしたものが図 10 である。

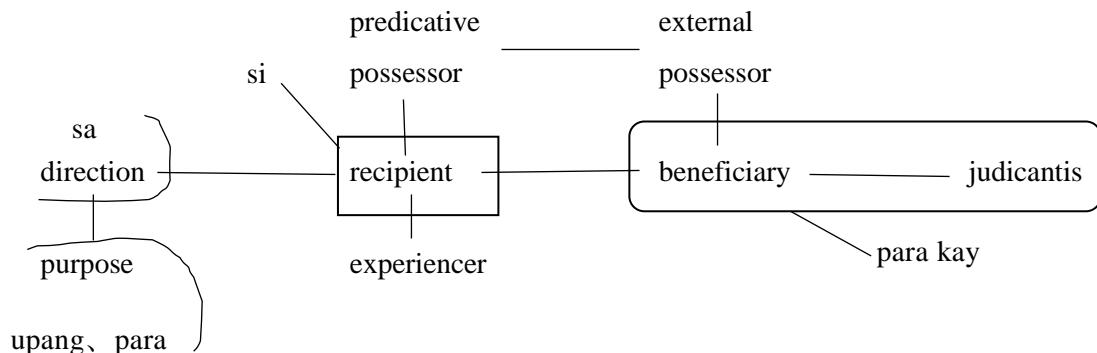


図 10. タガログ語の DATIVE (H.map にマッピング)

タガログ語の DATIVE も、図 10 からわかるように、H.map により説明できる。

### 3.5. スペイン語

データ収集には、スペイン語話者の J 氏にご協力いただいた。DATIVE および non-DATIVE は表 7 に示す通りである。

表 7. スペイン語の DATIVE および non-DATIVE

機能名	DATIVE	non-DATIVE
a. direction	a	
b. recipient	a	
c. experiencer	a (i)	$\phi$ (iii~v)
d. purpose	para	
e. beneficiary	para	
f. judicantis	para	
g. predicative possessor		$\phi$ (i~iv)
h. external possessor		de (i, ii)

non-DATIVE 欄の  $\phi$  は、DATIVE が出現すると予測される部分に形態素が出てこなかったことを示している。スペイン語は S、A、P 全て格標示がなされないため、 $\phi$  は分析の対象としない (6.5.1 節参照)。代表して (c.iv) を以下に示す。

(39) non-DATIVE: 「無」

<i>María</i>	<i>quiere</i>	<i>un</i>	<i>coche.</i>
マリア	欲しい.3.SG.NPST	ART	車
'Maria wants a car.'			

(h) の「de」は、Internal possession と解釈されたため non-DATIVE とした。 (h.i) の回答を挙げる。スペイン語において、de を用いる所有句は〈被所有 + de + 所有〉の語順で表される。

(40) non-DATIVE: 「de」

<i>Yo</i>	<i>cogí</i>	<i>las</i>	<i>manos</i>	<i>de</i>	<i>María.</i>
1.SG.NOM	取る.1.SG.PST	ART	手.PL	GEN	マリア
'I took Maria's hands.'					

表 7 の DATIVE を H.map にマッピングしたものが図 11 である。

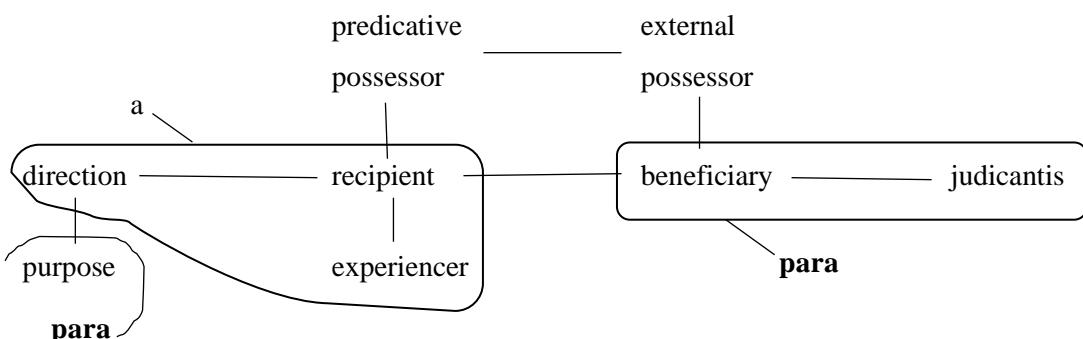


図 11. スペイン語の DATIVE (H.map にマッピング)

図 11 をみると、形態素 *para* が purpose、beneficiary、judicantis で観察され、H.map では説明できないことがわかる。

## 4. H.map の修正

### 4.1. 新たな map の提案

5 言語の DATIVE を観察した結果、スペイン語において DATIVE の配置に問題があることが分かった。具体的には、purpose、beneficiary、judicantis を近くにマッピングする必要がある。

そこで、本章では H.map を修正し、スペイン語のデータを適切に説明できる新たな map

を提示する。まず、その map を図 12 に示す。図 12 は、purpose、beneficiary、judicantis の 3 機能を繋げ、かつ、筆者が調査した 5 言語の DATIVE と英語・フランス語の与格が矛盾なくマッピングされた新しい map である。

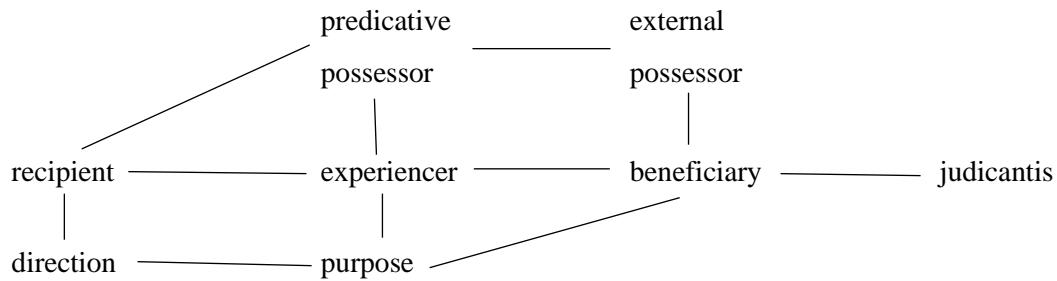


図 12. 新しい map

なお、この新たな map(以下、H.map との違いを明確にするために Y.map とする) は、今回調査した 6 言語以外の与格のデータに対しても説明力を持つ。この点を実証するため、以下では既存の記述文法書を精査することで、それらの追加データをも適切に説明できることを示す。

#### 4.2. 記述文法書データの検討

筆者は、文法書を用いてさらに 7 言語の与格が有する機能を調査した。調査言語は、イク語、アムド・チベット語、ケト語、ネギダール語、レズギ語、ヤウル語、カビネーニヤ語である。図 13 に各言語が用いられている場所を、(41) に語族とアライメントを示す。

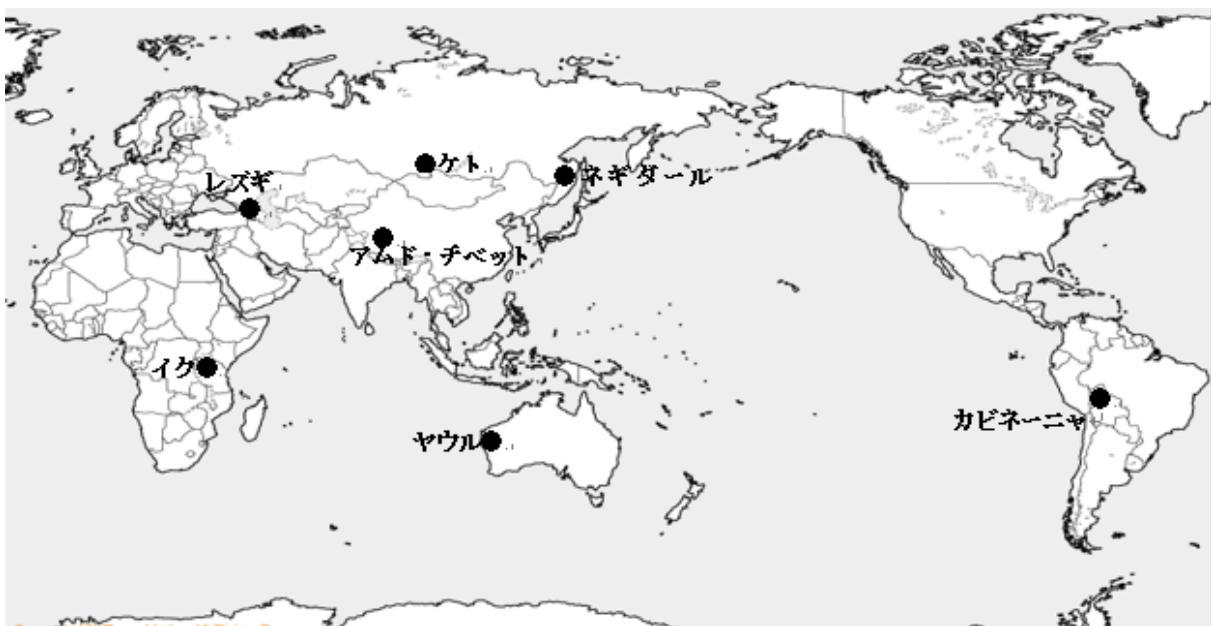


図 13.7 言語が用いられる地理

(41) 【7言語の語族とアライメント】

- a. イク語: イースタン・スダニック語族、対格型 (Terrill 2014)
- b. アムド・チベット語: シナチベット語族、能格型 (海老原 2019)
- c. ケト語: エニセイ語族、能格型 (Georg 2007)
- d. ネギダール語: ツングース諸語、対格型 (風間 2002)
- e. レズギ語: ナコン・ダゲスタン語族、能格型 (Haspelmath 1993)
- f. ヤウル語: ニュルニュル語族、能格型 (Hosokawa 1991)
- g. カビネーニヤ語: タカナ語族、能格型 (Guillaume 2008)

文法書の与格を調べ、H.map と Y.map を使ってそれぞれ記述し、配列の矛盾の有無を確認した。表 8 に、矛盾がある言語の数となかった言語の数を示す。

表 8. 各 map における 7 言語の配列矛盾の有無とその言語数

	Y.map	H.map
配列矛盾なし	7	5
配列矛盾あり	0	2

表 8 を見ると明らかなように、H.map では説明できない言語が 2 言語あったが、Y.map では 7 言語全てを矛盾なく説明できる。ただし、これまでの 6 言語の調査と違い、文法書をデータに使用する際にはそのデータの性質に注意しなければならない。すなわち、文法

書が網羅的であるかどうかは不明であって、ある文法書の与格の記述が一見すると H.map に矛盾しているからと言って、それは H.map の欠陥を示すものなのか、文法書の欠陥を示すものなのかがわからないのである。

そこで、以下では表 8 で「配列矛盾あり」となった 2 言語を詳しく見てみることにする。H.map の「配列矛盾あり」言語はヤウル語とカビネーニヤ語であった。

まず、ヤウル語を見る。ヤウル語は、図 14 のように各機能を標示している。judicantis の例文は文法書で見られなかった。また、experiencer は絶対格（斜格ではない。）で標示されるため考察対象から除く。

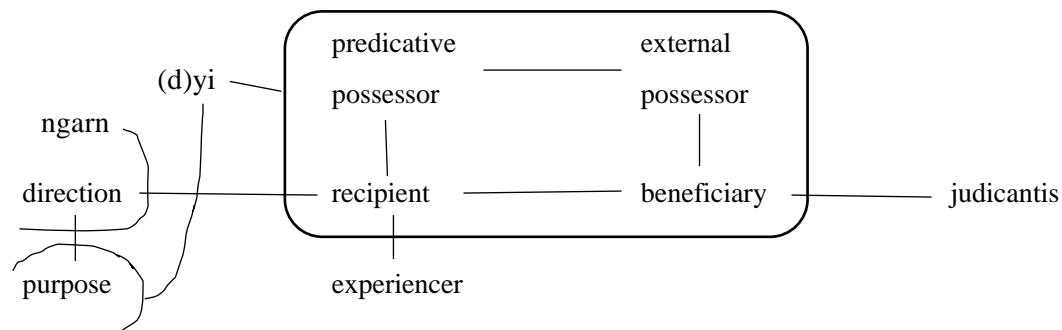


図 14. ヤウル語の (d)yi と ngarn (H.map にマッピング)

このように、確かに H.map では与格の配置に問題がある。もちろん、ヤウル語の記述文法において、(d)yi が direction の機能を有しているながら、記載されていなかった、という可能性も否定できない。しかし、direction の機能を有する別の形態素 ngarn を記述している点を鑑みると、上記の可能性は考えにくい。

Y.map にマッピングした場合が図 15 である。

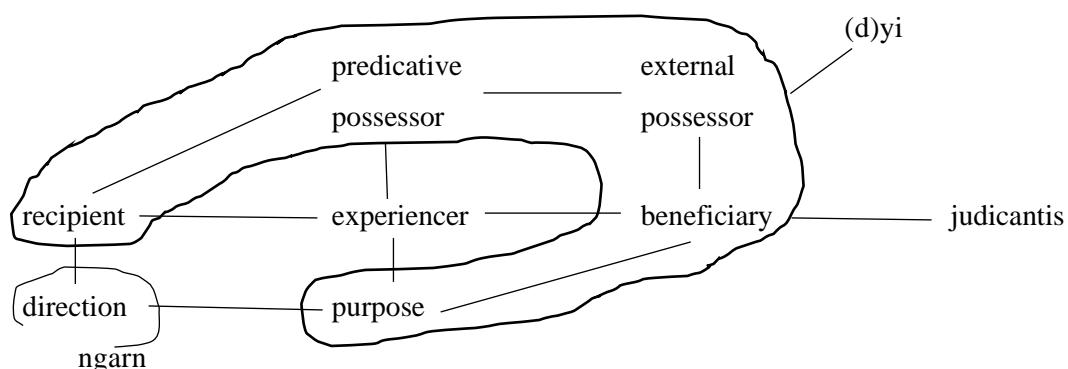


図 15. ヤウル語の (d)yi と ngarn (Y.map にマッピング)

以上のように、ヤウル語の与格は Y.map ならば説明可能である。

次に、カビネーニヤ語をみる。カビネーニヤ語は、図 16 のように各機能を標示している。*judicantis*, *external possessor* の例文は文法書で見られなかった。また、*recipient* は特定の格で標示されないため、この 3 つの機能は考察対象としない。

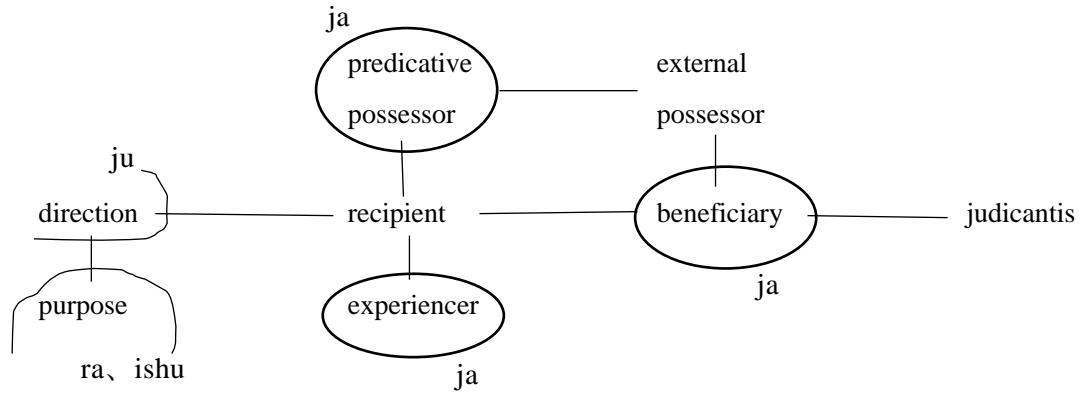


図 16. カビネーニヤ語の ja、ju、ra、ishu (H.map にマッピング)

Guillaume (2008) は、*recipient* が 'ja' で表されないことを明確に記載している (Guillaume 2008: 125) ため、H.map の問題が確実となる。一方、同じ言語データを Y.map にマッピングしたものが図 17 である。

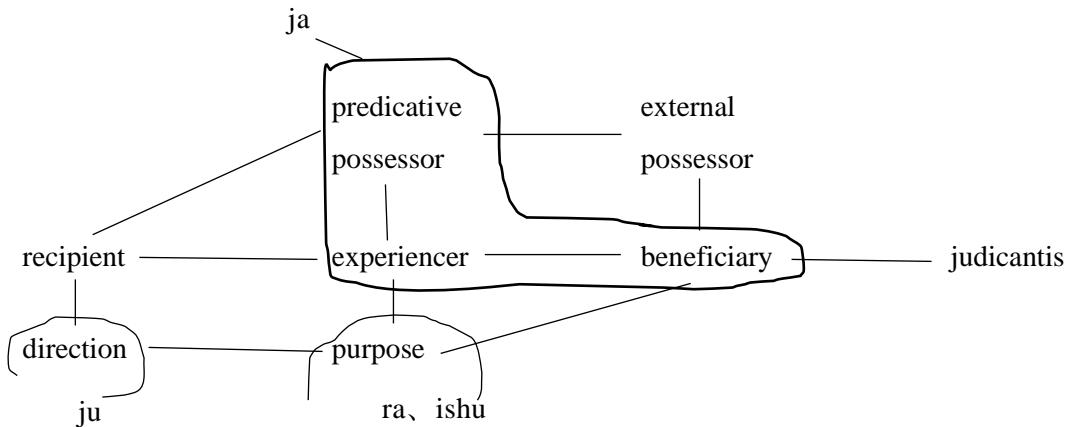


図 17. カビネーニヤ語の ja、ju、ra、ishu (Y.map にマッピング)

以上、ヤウル語とカビネーニヤ語の DATIVE の配置から、Y.map の妥当性を示すことができたと結論付ける。この調査では、諸言語との整合性がより保たれるのは H.map よりも Y.map であることがわかった。

## 5. おわりに

本論文では、DATIVE という定義に沿って日本語標準語、日本語熊本方言、韓国語、中

国語、タガログ語、スペイン語の 6 言語を調査し、H.map を修正した案を提示した。さらに、ヤウル語、カビネーニャ語のデータから、Y.map の妥当性を強めることに成功している。

H.map と Y.map を比較すると、まず、機能同士を結び付ける直線の本数に違いがみられる。H.map では 8 本だが Y.map では 11 本で、これは、purpose と experiencer における他の機能との結びつきが増えたためである。H.map では purpose は direction とのみ、experiencer は recipient とのみ線で結ばれていた。しかし、Y.map では purpose が beneficiary と experiencer に、experiencer が predicative possessor と beneficiary に新たに繋がっていることがわかる。

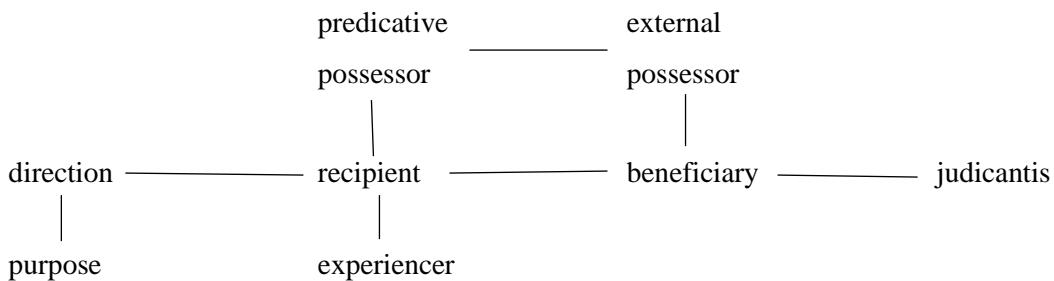


図 18. H.map (再掲)

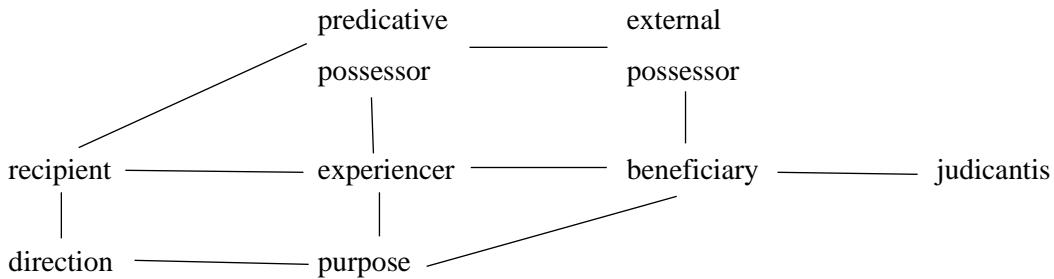


図 19. Y.map (再掲)

これは、purpose と experiencer が、他機能との意味的近接性を獲得している見方をすることができる。

今後の課題を 2 点以下に述べる。

1 点目は、検証した言語数の少なさである。Y.map の妥当性を示すのに 7 言語の与格を調べたが、やはり言語数の少なさは否めない。さらに言語数を増やすことでより強固に新しい map の妥当性を示せるはずである。

2 点目は、各機能の意味的近接性の論理的証明である。以下では、recipient, experiencer, beneficiary の配置関係に注目して課題を述べる。

元々 H.map では、recipient と beneficiary は直接的に結ばれていた。そもそも、recipient と

*beneficiary* はいずれも 3 項動詞文でみられる機能で、前者はモノの移動を、後者は相手への受益的な動作の移動を示す。構造的にも意味的にも近接性が高いため、*H.map* のような配列は理にかなっている印象を受ける。しかし、筆者が提案した *Y.map* では両者の間に *experiencer* が介入された形をとっている。*recipient* と *experiencer*、そして *beneficiary* と *experiencer* が意味的に近いことを示すような論理的証明は現段階ではできていない。今後の調査で明らかにしていくべき項目である。

## 6. 卷末資料

日本語（標準語・熊本方言）、韓国語、中国語、タガログ語、スペイン語の文法的な説明および調査回答全文を以下に掲載する。言語毎に、文法説明・回答全文を記す流れで記述している。文法説明に関しては、基本語順、アラインメント、主な格の種類を述べる。その後、特筆すべき点があればそれについても述べた。

### 6.1. 日本語

#### 6.1.1. 文法説明

**【基本語順】**一般的語順は〈主語＋述語〉である。標準語、熊本方言共に変わらない。

- (42) [私は] [おにぎりを食べたい。] [作例]  
[主語] [述語]

**【アラインメント】**アラインメントとは、自動詞主語 (S)、他動詞主語 (A)、他動詞目的語 (P)<sup>3</sup> をどのように表現し分けるかのパターンのことである。標準語は主格・対格型 (S と A を同じように示し、P を別に示すタイプ) である。

- (43) 花子が 太郎を 殺した。 [角田 2009: 33: (3-4)]  
[S] [P]

- (44) 花子が 走った。 [角田 2009: 33: (3-5)]  
[A]

熊本方言では、主格・対格型、三立型 (S、A、P をそれぞれ違う格で示すタイプ)、その他特殊なアラインメントがみられるという（坂井 2019: 53）<sup>4</sup>。

**【格】**日本語の格標示は側置詞（後置詞）によって行われる。「が」、「を」、「に」、「へ」、「で」、「から」、「より」、「まで」、「と」の 9 種類の格について以下で説明する。  
「が」は、動作の主体、対象を表す。（45）は「子供たち」が動きの主体であることを、（46）は「(恩師の) 死」が心的状態「悲しい」の対象であることをそれぞれ意味する。

---

<sup>3</sup> S は動作主や状態の持ち主等を表す語句、A は他に影響を与える「殺す」などを述語とした能動の動作の主体、P はその影響を受ける対象を表す。

<sup>4</sup> 詳細は坂井（2019）を参照されたい。

- (45) 【が】 (主体)  
子供たちが公園で遊ぶ。 [仁田 2009: 5]

- (46) 【が】 (対象)  
恩師の死が悲しい。 [仁田 2009: 5]

「を」は、変化や動作の対象などを表す。(47)は動作の対象を意味する。

- (47) 【を】  
太鼓をたたく。 [仁田 2009: 5]

「に」は、着点、相手、主体などの意味を持つ。幅広い意味を持つ格である。

- (48) 【に】 (着点)  
子どもが学校に行く。 [仁田 2009: 5]

- (49) 【に】 (相手)  
おばあさんが孫に絵本をやる。 [仁田 2009: 5]

- (50) 【に】 (主体)  
私には大きな夢がある。 [仁田 2009: 5]

「へ」は、着点を表す。(51)は移動の方向を意味している。

- (51) 【～】  
船が港へ向かう。 [仁田 2009: 6]

「で」は、手段、起因・根拠などを表す。

- (52) 【で】 (手段)  
ナイフでチーズを切る。 [仁田 2009: 6]

- (53) 【で】 (起因・根拠)  
友人とのことで悩んでいる。 [仁田 2009: 6]

「から」は、起点や主体、起因・根拠などを表す。(54) は移動の起点を、(55) は判断の根拠を示している。

(54) 【から】 (起点)

子供たちが教室から出てきた。

[仁田 2009: 6]

(55) 【から】 (起因・根拠)

隣の部屋の人物がだれなのか、甲高い声からわかった。

[仁田 2009: 6]

「より」は、起点を表す。(56) は、移動の起点を示している。

(56) 【より】

遠方より友来たる。

[仁田 2009: 6]

「まで」は、着点(範囲の終点)を表す。

(57) 【まで】

子供が学校まで自転車で通う。

[仁田 2009: 6]

「と」は、共同の相手などを表す。

(58) 【と】

友達と喫茶店でコーヒーを飲んだ。

[仁田 2009: 6]

次に、熊本方言の格の説明を行う。標準語のように網羅的な説明ではなく、熊本方言でみられる特異な格にとどめる。具体的には、「(主格の) の」、「ば」、「さん」、「から」の4つを扱う。

「の」は主語を標示する格(主格)である。標準語の「が」が許容されないわけではなく、使い分けの基準<sup>5</sup>が存在する(坂井 2019: 38)。

---

<sup>5</sup> 有生性階層や他動性階層など(坂井 2019)。

- (59) *sjuntjanno*                    *kaze*                    *hiitorasu.*  
       sjun-tjan=no                    kaze                    hik-i-tor-ras-ru  
       俊-DIM=NOM                        風邪                    ひく-THM-PF-HON-NPST  
       「俊ちゃんが風邪をひいている。」

[筆者の調査データより]

「ば」は直接目的語を標示する格である。標準語の「を」も用いられ、これらは自由交替する（坂井 2019: 47）。

- (60) Y が壺ば倒した。                    [坂井 2019: 51: (17); 表記変更]

「さん」は方向を表す格助詞で、標準語の「へ」と対応する。九州地方と東北地方を中心とする地域で使用されるという。例文は(61)である。

- (61) *kumamotosan*                    *okuttoite*                    *jaru.*  
       kumamoto=san                    okur-te-ok-te                    jar-ru  
       熊本=ALL                            送る-SEQ-おく-SEQ            与える-NPST  
       「熊本へ送つといでやる。」

[原田 1953: 175: (3-5); 表記変更]

最後に「から」について述べる。標準語には無い、受身文の動作主を表す用法が山形県を中心とする東北地方と九州地方西部に分布しているという。なお、標準語の場合、受身の動作主を表すのには与格「に」が使用される。

- (62) *senseekara*                    *okorareta.*  
       sensee=kara                    okor-rare-ta  
       先生=ABL                            怒る-PASS-PST  
       「先生に怒られた。」

[佐々木 2019: 32; 表記変更]

### 6.1.2. 調査回答

標準語は筆者の内省を基にし、対話調査は行っていないため回答は載せない（表1の調査例文と同じである）。熊本方言のみ回答全文を掲載する。アルファベット、ローマ数字は表1に対応する。回答が複数ある場合、丸囲みの数字で通し番号を振った（その他の言語も同様）。

以下、日本語熊本方言話者の回答である。1行目に音韻表記、2行目に形態素表記、3段目にグロス、4段目に全文訳を記した。

(63)

a.	①	<i>taroo</i>	<i>mainiti</i>	<i>gakkoo=san</i>	<i>ikijorasubai.</i>
		taroo	mainiti	gakkoo=san	ik-i-jor-ras-ru=bai
		太郎	毎日	学校=ALL	行く -THM-IPF-HON-NPST=DSC
「太郎は毎日学校に行く。」					

②	<i>taroo</i>	<i>mainiti</i>	<i>gakkoo=ni</i>	<i>ikijorasubai.</i>
	taroo	mainiti	gakkoo=ni	ik-i-jor-ras-ru=bai
	太郎	毎日	学校=LOC	行く -THM-IPF-HON-NPST=DSC
「太郎は毎日学校に行く。」				

b.	<i>kinoo</i>	<i>tarooni</i>	<i>pen</i>	<i>jattattai.</i>
	kinoo	taroo=ni	pen	jar-ta=to=tai
	昨日	太郎=DAT	ペン	与える-PST=FMN=DSC
「昨日太郎にペンをあげた。」				

c.i	<i>ano hito</i>	<i>kareega</i>	<i>suitora sumon.</i>
	ano=hito	karee=ga	su-i-tor-ras-ru=mon
	DEM=人	カレー=NOM	好き-THM-PF-HON-NPST=DSC
「あの人はカレーが好きだ。」			

c.ii	<i>tarooga</i>	<i>hanakoba</i>	<i>sukitte</i>	<i>uwashawa</i>
	taroo=ga	hanako=ba	suki=tte	uwasa=wa
	太郎=NOM	花子=ACC	好き=QT	噂=TOP

*hontoo jattattai.*  
*hontoo=jar-ta=to=tai*  
 本当=COP-PST=FMN=DSC  
 「太郎が花子を好きって噂は本当だったんだね。」

c.iii ① *tarooniwa*      *sono*      *koega*      *kikoetagenatai.*  
taroo=ni=wa      sono      koe=ga      kikoe-ta=gene=tai  
太郎=DAT=TOP      DEM      声=NOM      聞こえる-PST=HS=DSC  
「太郎にはその声が聞こえたそうだ。」

② *tarooni*      *sono*      *koega*      *kikoetattetai.*  
taroo=ni      sono      koe=ga      kikoe-ta-tte=tai  
太郎=DAT      DEM      声=NOM      聞こえる-PST=QT=DSC  
「太郎にその声が聞こえたそうだ。」

c.iv ① *taroono*      *doonatuno*  
taroo=no      doonatu=no  
太郎=NOM      ドーナツ=NOM

*kuoogotarurasiiken.*  
kuw-a-u=gotar-ru=rasi-i=ken  
食べる-THM-VOL=DES-NPST=HS-NPST=REASON  
「太郎はドーナツが食べたいらしい。」

② *tarooga*      *doonatuba*      *hosikate*  
taroo=ga      doonatu=ba      hosi-ka=te  
太郎=NOM      ドーナツ=ACC      欲しい-NPST=QT

*iijorasitajo.*  
ii-jor-ras-i-ta=jo  
言う-IPF-HON-THM-PST=DSC  
「太郎がドーナツを食べたいと言っていたよ。」

c.v	<i>hanakowa</i>	<i>imootoba</i>
	hanako=wa	imooto=ba
	花子=TOP	妹=ACC

*urajamasigattorasunojaronee.*  
 urajamasi-gar-tor-ras-ru=no=jar-roo=nee  
 羨ましい-VBLZ-PF-HON-NPST=NMLZ=COP-INFR=DSC  
 「花子は妹を羨ましがっているのだろうね。」

d.	<i>kurumano</i>	<i>kawasukenga</i>
	kuruma=no	kaw-ras-ru=kenga
	車=NOM	買う-HON-NPST=REASON

*tamejorasutotai.*  
 tame-jor-ras-ru=to=tai  
 貯める-IPF-HON-NPST=FMN=DSC  
 「(あの人は) 車を買うから(お金を)貯めている。」

e.	<i>watasi</i>	<i>taooni</i>	<i>zitensjaba</i>	<i>koote</i>
	watasi	taoo=ni	zitensja=ba	kaw-te
	1.SG	太郎=DAT	自転車=ACC	買う-SEQ

*jattamonnee.*  
 jar-ta=mon=nee  
 与える-PST=DSC=DSC  
 「私は太郎に自転車を買ってあげたよ。」

f.	<i>kora</i>	<i>kodomoniwa</i>	<i>atukarodai.</i>
	kore=wa	kodomo=ni=wa	atu-karo=dai
	これ=TOP	子供=DAT=TOP	暑い-INFR=DSC

「これは子供には暑いだろう。」

g.i	<i>utino</i>	<i>kowa</i>	<i>mezurasika</i>	<i>honba</i>
	uti=no	ko=wa	mezurasi-ka	hon=ba
	1.SG=GEN	子=TOP	めずらしい-NPST	本=ACC
	<i>taigja</i>		<i>mottorasumon.</i>	
	taigja		mot-tor-ras-ru=mon	
	たくさん		持つ-PF-HON-NPST=DSC	
			「私の子はめずらしい本をたくさん持っているよ。」	
g.ii	<i>sjuntjanno</i>	<i>kaze</i>	<i>hiitorasu.</i>	
	sjun-tjan=no	kaze	hik-i-tor-ras-ru	
	俊-DIM=NOM	風邪	ひく-THM-PF-HON-NPST	
			「俊ちゃんが風邪をひいている。」	
g.iii	<i>watasi</i>	<i>kyoodai</i>	<i>sannin</i>	<i>orumon.</i>
	watasi	kyoodai	sannin	or-ru=mon
	1.SG	兄弟	三人	いる-NPST=DSC
			「私は三人兄弟がいる。」	
g.iv	<i>mearii</i>	<i>aoi</i>	<i>meba</i>	<i>sitorasumon.</i>
	mearii	ao-i	me=ba	s-i-tor-ras-ru=mon
	メアリー	青い-NPST	目=ACC	する-THM-PF-HON-NPST=DSC
			「メアリーは青い目をしている。」	
h.i	<i>ora</i>	<i>orega</i>	<i>teo</i>	<i>arau.</i>
	ore=wa	orega	te=o	araw-u
	1.SG=TOP	1.SG=GEN	手=ACC	洗う-NPST
			「私は私の手を洗う。」	
h.ii	<i>hanakono</i>	<i>kamiga</i>		<i>nagai.</i>
	hanako=no	kami=ga		naga-i
	花子=GEN	髪=NOM		長い-NPST
			「花子の髪が長い。」	

## 6.2. 韓国語

### 6.2.1. 文法説明

「ハングゴ」「ハングンマル」と大韓民国で呼ばれる韓国語は、朝鮮半島で約 7130 万人によって話されている言語である（野間ほか 2007）。

【基本語順】〈主語+述語〉である。

(64)	[나는]	[영희한테]	자전거를	사	줬다.]
	[主語]	[述語]			
	na=nun	yenghuy=hanthey	cacenke=lul	sa	cwuuysssta
	1.SG=TOP	ヨンヒ=DAT	自転車=ACC	買う	与えた
「私はヨンヒに自転車を買ってあげた。」					

[筆者の調査データより；ローマ字転写は Yale 式に則る]

【アライメント】主格・対格型である。S, A を標示するのは「가」、P を標示するのは「를」である。

(65)	[영희]가	수영.	
	[S]		
	yenghuy=ka	swuyeng	
	ヨンヒ=NOM	泳ぐ	
「ヨンヒが泳ぐ。」			[作例]

(66)	[영희]가	[설도윤]를	죽였다.
	[A]	[P]	
	yenghuy=ka	seltoyun=lul	cwukyessta
	ヨンヒ=NOM	トユン=ACC	殺した
「ヨンヒがトユンを殺した。」			[作例]

【格】韓国語の格標示は日本語と同じく側置詞（後置詞）タイプである。朴（1997）にならい、이 'T／가' 'GA'、을 'UL'／를 'RUL'、에 'E'／에게 'EGE'、으로 'URO'／로 'RO'、과 'KWA'／와 'WA'、에서 'ESO'、부터 'PUTO'、보다 'PODA'、의 'UI' の 9 種類の格の説明を行う。なお、この章の【格】の例文と説明に関して、ローマ字のみを使用した朴（1997）をそのまま引用し、また、ローマ字転写も朴（1997）に倣った。

이 'T／가' 'GA' は日本語の「ガ」にあたる。主格用法と主題用法がある。前接する単語

が子音終わりのときは I が後接し、母音終わりのときは GA が後接する。

(67) 【I / GA】主格

Chongsu-GA haksaengimnida.

太郎が学生です。

[朴 1997: 33: (6a) ]

(68) 【I / GA】主格

pi-GA naerigo issumnida.

雨が降っています。

[朴 1997: 33: (6b) ]

(69) 【I / GA】主題

igos-I muojo?

これはなんですか。

[朴 1997: 33: (6c) ]

을 'UL'／를 'RUL' は、日本語の「～を」にあたる。日本語と類似した用法に「動作の対象」などがある。前接する単語が子音終わりのときは UL が後接し、母音終わりのときは RUL が後接する。

(70) 【UL / RUL】動作の対象

chongi-ro pihaenggi-RUL mandunda.

紙で飛行機を作る。

[朴 1997: 39: (8a) ]

しかし、(71) に示すように、日本語では「に」をとりうるが韓国語では UL / RUL が使われる場合がある。

(71) 【UL / RUL】目的

Pusan-uro yonghwachwaryong-UL watta.

釜山へ映画の撮影に來た。

[朴 1997: 42: (15b) ]

에 'E'／에게 'EGE' は、日本語の「～に (場所・時・対象などを表す)」にあたる。主な用法に、存在場所、時、到達点、動作の相手などがある。普通、無生の単語には E が後接し、有生の単語には EGE が後接する。

- (72) 【E / EGE】 存在場所  
san-E namu-ga opta.  
山に木がない。 [朴 1997: 50: (17a) ]

- (73) 【E / EGE】 時  
sawor-E Ilbon-e kal semimnida.  
四月に日本へ行く予定です。 [朴 1997: 51: (18b) ]

- (74) 【E / EGE】 到達点  
tongsaeng-un hakkyo-E katta.  
弟は学校に行った。 [朴 1997: 52: (19b) ]

- (75) 【E / EGE】 動作の相手  
na-nun Chiae-EGE kabang-ul chuotta.  
私は花子にかばんをあげた。 [朴 1997: 53: (22a) ]

으로 'URO'／로 'RO' は、日本語の「へ」、「で」、「と」、「から」といった幅広い意味を持つ格である。前接する単語が子音終わりのときは URO が後続し、母音終わりのときは RO が後続する。日本語の「へ」に相当する用法には、方向や経由がある。

- (76) 【URO / RO】 方向  
kugi-rul chaburo pada-RO kalkkayo?  
魚を捕りに海へ行こうか。 [朴 1997: 57: (6a) ]

- (77) 【URO / RO】 経由  
Ariranggogae-RO nomoganda.  
アリラン峠を越えていく。 [朴 1997: 58: (8b) ]

日本語の「と」に相当する用法には、変化の結果や資格・身分、認識内容（「A は B と思った。」など。）がある。

- (78) 【URO / RO】 変化の結果  
mul-i orum-URO toenda.  
水が氷になる。 [朴 1997: 62: (9a) ]

- (79) 【URO / RO】 資格・身分  
 Chongsu-ga panjang-URO ppopootta.  
 太郎が学級委員に選ばれた。 [朴 1997: 62: (10b)]
- 日本語の「で」に相当する用法は、動作の手段、材料、原因・理由、様態などがある。
- (80) 【URO / RO】 ある動作をする手段・方法・道具  
 ku-nun Pusan-kkaji pihaenggi-RO katta.  
 彼は釜山まで飛行機で行った。 [朴 1997: 69: (15a)]
- (81) 【URO / RO】 ある動作をする材料・原料  
 namu-RO chib-ul chiotta.  
 木で家を作った。 [朴 1997: 69: (17a)]
- (82) 【URO / RO】 様態  
 moksori-ga choum-URO nawatta.  
 声が低音で出た。 [朴 1997: 70: (20a)]
- 日本語の「から」に相当する用法は、経由点を表す。
- (83) 【URO / RO】  
 nopun tulchang-URO hanul-ul naedabogo itta.  
 高窓から空を眺めていた。 [朴 1997: 79: (25a)]
- 舛 'KWA'／와 'WA' は、日本語の「と」に相当する格助詞である。前接する単語が子音終わりのときは KWA が後続し、母音終わりのときは WA が後続する。動作の相手や比較の基準を表す。
- (84) 【KWA / WA】 動作・作用の相手  
 Chongsu-ga Chaesu-WA ssaunda.  
 太郎が次郎とたたかう。 [朴 1997: 61: (7a)]

(85) 【KWA / WA】 比較の基準

odinga potongsaram-KWA tarun te-ga itta.

どこか普通の人と違ったところがある。

[朴 1997: 61: (8b) ]

에서 'ESO' は、日本語の「で」や「から」に相当する。「で」は、動作の場所などを表す。

(86) 【ESO】 動作・作用の行われる場所

Chongsu-ga tosogwan-ESO kongbuhanda.

太郎が図書館で勉強する。

[朴 1997: 67: (11a) ]

「から」は、場所、時間、方向の起点を表現する。

(87) 【ESO】 場所的な起点

kunyo-nun tushi-e hakkyo-ESO nawatta.

彼女は二時に学校から出た。

[朴 1997: 76: (14a) ]

(88) 【ESO】 方向の起点

maparam-un namtchog-ESO puroonun param-ul malhande.

はえは南から吹く風のことである。

[朴 1997: 76: (15a) ]

부터 'PUTO' は、「から」に相当し、時間的な起点や順番の起点を表す。なお、時間的な起点は ESO でも使われるが、PUTO の方が自然であるという。

(89) 【PUTO】 時間的な起点

more-PUTO kyoulbanghagimnida.

あさってから冬休みです。

[朴 1997: 78: (22c) ]

보다 'PODA' は比較の基準を表す。日本語の「より」に相当する

(90) 【PODA】

kongang-un chaemul-PODA natta.

健康は財産より勝る。

[朴 1997: 81: (5a) ]

의 'UI' は日本語の「の」に当たる助詞で、非常に多様な意味を持つ。〈N1+UI+N2〉という構造で抽象的に幅広い所有関係を示す。

(91) 【UI】 所有

na-UI chaek

私の本

[朴 1997: 92: (1a) ]

### 6.2.2. 調査回答

以下、韓国語話者の回答である。1行目に正書法による話者の回答、2行目にローマ字転写 (Yale 式) および形態素表記、3行目にグロス、4行目に和訳を記した。

(92)

a. 나는 매일 학교에 간다.  
na=nun mayil hakkyo=ey kanta  
1.SG=TOP 毎日 学校=DAT.IA 行く

「私は毎日学校に行く。」

b. ① 나는 영희에게 펜을 줬다.  
na=nun yenghuy=eykey pheyn=ul cwuuyssta  
1.SG=TOP ヨンヒ =DAT.A ペン=ACC 与えた

「私はヨンヒにペンをあげた。」

② 나는 영희한테 펜을 줬다.  
na=nun yenghuy=hanthey pheyn=ul cwuuyssta  
1.SG=TOP ヨンヒ =DAT.A ペン=ACC 与えた

「私はヨンヒにペンをあげた。」

c.i 영희는 카레를 좋아한다.  
yenghuy=nun khaley=lul cohahanta  
ヨンヒ=TOP カレー=ACC 好きだ  
「ヨンヒはカレーが好きだ。」

c.ii	영희가	카레를	좋아하는	것을
	yenghuy=ka	khaley=lul	cohaha=nun	kes=ul
	ヨンヒ=NOM	カレー=ACC	好き=ADN	こと=ACC

알고있습니까?

alkoissupnikka

知っているか

「ヨンヒがカレーが好きであることを知っていますか。」

c.iii	① 영희에게	그	소리가	들렸다.
	yenghuy=eykey	ku	soli=ka	tullyessta
	ヨンヒ=DAT.A	DEM	声=NOM	聞いた

「ヨンヒにはその声が聞こえた。」

②	영희에게는	그	소리가	들렸다.
	yenghuy=eykey=nun	ku	soli=ka	tullyessta
	ヨンヒ=DAT.A=TOP	DEM	声=NOM	聞いた

「ヨンヒにはその声が聞こえた。」

③	영희한테는	그	소리가	들렸다.
	yenghuy=hanthey=nun	ku	soli=ka	tullyessta
	ヨンヒ=DAT.A=TOP	DEM	声=NOM	聞いた

「ヨンヒにはその声が聞こえた。」

c.iv	영희는	차를	원한다.
	yenghuy=nun	cha=lul	wuuynhanta
	ヨンヒ=TOP	車=ACC	欲しい

「ヨンヒは車が欲しい。」

c.v	영희는	자신의	여동생을	부러워하고있다.
	yenghuy=nun	casin=uy	yetongsayng=ul	pwulewuuyhakoissta
	ヨンヒ=TOP	自分=GEN	妹=ACC	羨んでいる

「ヨンヒは自分の妹を羨んでいる。」

- d. 나는 새차를 사기위해서 절약하고있다.  
 na=nun saycha=lul sa-kiwuihayse celyakhakoissta  
 1.SG=TOP 新車=ACC 買う-PURP 節約している  
 「私は新車を買うために節約している。」
- e. ① 나는 영희에게 자전거를 사 줬다.  
 na=nun yenghuy=eykey cacenke=lul sa cwuuysssta  
 1.SG=TOP ヨンヒ=DAT.A 自転車=ACC 買う 与えた  
 「私はヨンヒに自転車を買ってあげた。」
- ② 나는 영희한테 자전거를 사 줬다.  
 na=nun yenghuy=hanthey cacenke=lul sa cwuuysssta  
 1.SG=TOP ヨンヒ=DAT.A 自転車=ACC 買う 与えた  
 「私はヨンヒに自転車を買ってあげた。」
- f. ① 방은 영희한테 덥다.  
 i pang=ul yenghuy=hanthey tepta  
 DEM 部屋=NOM ヨンヒ=DAT 暑い  
 「この部屋はヨンヒには暑い。」
- g.i 영희는 귀중한 책을 가지고있다.  
 yenghuy=nun kwuicwunghan chayk=ul kacikoissta  
 ヨンヒ=TOP 貴重な 本=ACC 持っている  
 「ヨンヒは貴重な本を持っている。」
- g.ii 영희는 감기에 걸렸다.  
 yenghuy=nun kamki=ey kellyessta  
 ヨンヒ=TOP 風邪=DAT かかるている  
 「ヨンヒは風邪をひいている。」
- g.iii 영희는 여동생 한명이 있다.  
 yenghuy=nun yetongsayng hanmyeng=i issta  
 ヨンヒ=TOP 妹 一人=NOM いる  
 「ヨンヒには一人妹がいる。」

g.iv	영희는	푸른	눈을	하고있다.
	yenghuy=nun	phwulun	nwun=ul	hakoissta
	ヨンヒ=TOP	青い	目=ACC	している
「ヨンヒは青い目をしている。」				

h.i	나는	영희의	손을	잡았다.
	na=nun	yenghuy=uy	son=ul	capassta
	1.SG=TOP	ヨンヒ=GEN	手=ACC	つかんだ
「私がヨンヒの手をとった。」				

h.ii	영희는	머리카락이	길다.
	yenghuy=nun	melikhalk=i	kilta
	ヨンヒ=TOP	髪=NOM	長い
「ヨンヒが髪が長い。」			

### 6.3. 中国語

#### 6.3.1. 文法説明

インフォーマントは台湾中国語話者であるが、基本的に中国語の資料により文法の説明をしている。台湾中国語と中国語には、ピンインの有無や文字の差異（簡体字・繁体字）はあるものの、文法的に大きな違いは無いためである。

**【基本語順】** 〈主語＋述語〉である。

(93) [我]	[給]	陳小明	(一枝)	筆。]
[主語]	[述語]			
1.SG	与える	陳小明	(一本)	ペン
「私は陳小明にペンをあげた。」				

[筆者の調査データより]

**【アライメント】** 中立型 (S, A, P を同じように示すタイプ) である。中国語は語順により文法関係が示され、基本的に格標示はなされない。

**【格】**主語、目的語の格標示は先に述べた通りである。ここでは介詞（英語の前置詞のようないわゆる）について、相原ほか（2016）を参考にし、21種類を列挙する。

イベントの場所や存在場所、時間を表すには「在」を用いる。

- (96) 【在】場所

这种	衣服	在	北方	流行。	
这-种	衣服	在	北方	流行	
DEM-ような	服	DAT	北方	流行る	
「この手の服は北方で流行っている。」					
					[相原ほか 2016: 125]

(97) 【在】時間

火车	在	六点整	通过	这座	桥。
火车	在	六点-整	通过	这-座	桥
汽车	DAT	六時-丁度	通過する	DEM-CLF	橋
「汽車は六時にこの橋を通過する。」					
					[相原ほか 2016: 127; 一部変更]

出発点や経過点、開始時間を表すのは「从」である。

(98) 【从】出発点

他	从	英國	回来	了。
3.SG	ABL	イギリス	戻ってくる	PFV
「彼はイギリスから帰ってきた」				[相原ほか 2016: 125]

(99) 【从】開始時間

暑假	从	七月十五号	开始。	
夏休み	ABL	7月15日	始まる	
「夏休みは7月15日から始まる。」				[相原ほか 2016: 127]

「到」は終点到着地や到達時を表す。

(100) 【到】終点到着地

我们	到	中国	去	旅行。
我-们	到	中国	去	旅行
1-PL	LOC	中国	行く	旅行する
「私たちは中国へ旅行に行く。」				[相原ほか 2016: 125]

(101) 【到】到達時

新建的	宿舍	到	月底
新-建-的	宿舍	到	月底
新しい-建てる-ADJR	宿舎	LIM	月末
可以			竣工。
可以			竣工
できる			竣工する
「新しい宿舎は月末までには竣工できる。」			[相原ほか 2016: 127]

「離」は、距離的な隔たりや時間的な隔たりを表す。

(102) 【離】 距離の隔たり

你	家	离	学校	远不近？
你	家	离	学校	远-不-远
2.SG	家	ABL	学校	遠い-NEG-遠い

「君の家は学校から遠いか。」

[相原ほか 2016: 125]

(103) 【離】 時間の隔たり

离	出发	不到	十分钟	了。
离	出发	不-到	十分钟	了
LIM	出發	NEG-足りる	10 分	PFV

「出発までにあと 10 分足らずだ。」

[相原ほか 2016: 127]

「往」、「向」、「朝」は、いずれも方向を表す。「往」は移動を伴う方向を示すが、「向」は抽象的方向なども表すことができる。「朝」は面と向かう方向を示す。

(104) 【往】 方向

一直	往	南	走。
まっすぐ	ALL	南	歩く

「まっすぐ南に行きなさい。」

[相原ほか 2016: 126]

(105) 【向】 方向

列车	向	北京	奔驰。
列車	ALL	北京	走る

「列車が北京へ向けて疾走する。」

[相原ほか 2016: 126]

(106) 【朝】 方向

我	朝	他	点头。
1.SG	ALL	3.SG	うなづく

「私は彼に向ってうなづいた。」

[相原ほか 2016: 126; 一部変更]

「跟」は対象を表し、日本語では「と」、「に」、「から」などと訳される。

(107) 【跟】対象

明天	我	要	跟	他	一起	去。
明日	1.SG	PROSP	COM	3.SG	一緒に	行く
「明日は彼と一緒に行こうと思う。」						[相原ほか 2016: 127]

「和」は動作を一緒に行う相手を示す。

(108) 【和】共同動作の相手

这个	问题,	我	和	老张
这一个	问题,	我	和	老张
DEM-CLF	問題	1.SG	COM	張さん
商量				了。
商量				了
話し合う				PFV
「この問題は張さんと相談済みだ。」				[相原ほか 2016: 127]

「对」も対象を表すが、日本語では「～に向かって、に対して」などと訳される。

(109) 【对】対象

我	对	这件	事儿	有	意見。
我	对	这-件	事-儿	有	意見
1.SG	に対して	DEM-CLF	もの-DIM	ある	意見
「この件に関して不満がある。」					[相原ほか 2016: 127]

「为」は受益者や目的を表す。

(110) 【为】受益者

他	为	人类	作	出	了	重大	贡献。
他	为	人类	作	出	了	重大	贡献
3.SG	PURP	人類	作る	RES	PFV	重大な	貢献
「彼は人類のために大変な貢献をした。」							[相原ほか 2016: 127]

(111) 【为】目的

我们	为	共同	目标	而	奋斗。
我-们	为	共同	目标	而	奋斗
1PL	PURP	共同	目標	SEQ	奮闘

「我々は共同の目標のために奮闘する。」

[相原ほか 2016: 128]

「給」は与え先を表す。

(112) 【给】与え先

他	给	我们	介绍	了	这	的	情况。
他	给	我-们	介绍	了	这	的	情況
3.SG	くれる	1-PL	紹介する	PFV	ここ	GEN	狀況

「彼は私たちにこの状況を紹介してくれた。」

[相原ほか 2016: 127]

「替」は受益者を表す。

(113) 【替】

我	替	你	找	到	了	这份	材料。
我	替	你	找	到	了	这-份	材料
1.SG	替る	2.SG	探す	RES	PFV	DEM-CLF	資料

「私は君のためにこの資料を探したんだ。」

[相原ほか 2016: 127]

「对于」も対象を示す。

(114) 【对于】

对	于	村里	的	情况,	我	不-大	明白。
对	于	村里	的	情况	我	不-大	明白
対する	DAT	村の中	GEN	状況	1.SG	NEG-よく	わかる

「村の状況については、私はよくわからない。」

[相原ほか 2016: 127]

「关于」は関係ある物事を表す。

(115) 【关于】

关	于	这个	问题,	还	要
关	于	这一个	问题	还	要
關於	DAT	DEM-CLF	問題	まだ	PROSP

研究 一下。

研究 一下

検討する ちょっと

「この問題については、さらに検討してみなければならない。」

[相原ほか 2016: 127]

「按」は判断の基準を表す。

(116) 【按】

按	高	矮	个儿	排队。
按	高	矮	个-儿	排队。
基づく	高い	低い	身長-DIM	並ぶ

「背の順に並ぶ。」 [相原ほか 2016: 128]

「据」は判断のよりどころを示し、日本語では「～によって」という意味である。

(117) 【据】

据天气预报说	明天	有	大风。
据-天气预报-说	明天	有	大风。
天気予報.よる	明日	ある	激しい風

「天気予報によると、明日は風が強い。」 [相原ほか 2016: 128]

「由」は行為者を示す。

(118) 【由】

下午	的	会议	由	老王	主持。
午後	GEN	会議	ABL	王さん	執り行う
「午後の会議は王さんが執り行う。」					[相原ほか 2016: 128]

「除了」は、除外されるものを表す。

(119) 【除了】除外物

这儿	除了	咱们俩,	没	有	别人。
这-儿	除了	咱-们-俩	没	有	别人。
ここ-DIM	除いて	1-PL-二人	NEG	ある	他の人
「ここには我々二人のほかは誰もいない。」					[相原ほか 2016: 128]

### 6.3.2. 調査回答

以下、台湾中国語語話者の回答である。1行目に正書法による話者の回答、2行目にグロス、3行目に和訳を記した（必要があれば形態素分析も付した）。

(120)

- a. 我 每天 (都 會) 去 學校。  
1.SG 每日 (いつも PROSP) 行く 学校  
「私は毎日学校に行く。」
- b. 我 紿 陳小明 (一枝) 筆。  
1.SG 与える 陳小明 (一本) ペン  
「私は陳小明にペンをあげた。」
- c.i 陳小明 喜歡 咖哩。  
陳小明 好き カレー  
「陳小明はカレーが好きだ。」

- c.ii 你 知道 陳小明 喜歡 咖哩 嗎?  
     2.SG 知る 陳小明 好き カレー Q  
     「陳小明がカレーが好きであることを知っていますか。」
- c.iii 陳小明 聽 到 了 那個 聲音。  
     陳小明 聽 到 了 那-個 聲音。  
     陳小明 聞く RES PFV DEM-CLF 声  
     「陳小明にはその声が聞こえた。」
- c.iv 陳小明 想要 (一台) 車。  
     陳小明 ほしい (1つ) 車  
     「陳小明は車が欲しい。」
- c. v 陳小明 很 羨慕 (自己) 的 妹妹。  
     陳小明 非常に 羨む (自分) GEN 妹  
     「陳小明は自分の妹を羨んでいる。」
- d. 我 為了 買 新 車 正在 省 錢。  
     1.SG PURP 買う 新しい 車 PROG 節約 金  
     「私は新車を買うために節約している。」
- e     ① 我 買 了 腳踏車 紿 陳小明。  
       1.SG 買う PFV 自転車 あげる 陳小明  
       「私は陳小明に自転車を買ってあげた。」
- ② 我 紿 陳小明 買 了 腳踏車。  
       1.SG あげる 陳小明 買う PFV 自転車  
       「私は陳小明に自転車を買ってあげた。」

f.	這間	房間	對陳小明來說
	這-間	房間	對-陳小明-來說
	DEM-CLF	部屋	陳小明.for

很 熱。  
很 熱。  
非常に 熱い  
「この部屋は陳小明には暑い。」

g.i	陳小明	有	一本	很	珍貴的	書。
	陳小明	ある	一冊	非常に	貴重な	本
「陳小明は貴重な本を持っている。」						

g.ii	陳小明	感冒	中。
	陳小明	風邪をひく	PROG
「陳小明は風邪をひいている。」			

g.iii	陳小明	有	一個	妹妹。
	陳小明	ある	一人	妹
「陳小明には一人妹がいる。」				

g.iv	陳小明	的	眼睛	是	藍色的。
	陳小明	GEN	目	COP	青い
「陳小明は青い目をしている。」					

h.i	我	抓	住	陳小明	的	手。
	我	抓	住	陳小明	的	手。
	1.SG	取る	RES	陳小明	GEN	手
「私が陳小明の手をとった。」						

h.ii	陳小明	的	頭髮	很	長。
	陳小明	GEN	髪	非常に	長い
「陳小明が髪が長い。」					

## 6.4. タガログ語

### 6.4.1. 文法説明

タガログ語 (=フィリピノ語<sup>6</sup>) はフィリピンで公用語として話されている言語である。他言語と同様の流れで説明をするが、最後の【文法概要】から読むことを薦める。

**【基本語順】** 〈述語+補語〉が基本語順である。補語のうち主題標識辞 ANG または SI によってマークされるもの<sup>7</sup>が主題として機能する。(121) では baro'、(122) では Tita が主題である。英語の *be* 動詞に相当するものはない。

- (121) Maganda      ang      baro'.  
              美しい      SPEC    洋服  
              「その着物は美しい。」

[山田 1989: 587]

- (122) Maganda      si      Tita.  
              美しい      SPEC    ティタ  
              「ティタさんは、美しい。」

[森口 1987: 7]

主題標識辞 ANG によって主題がマークされるとき、非主題句には非主題標識辞 NG<sup>8</sup>／SA が先行する。ANG と NG／SA の関係は、日本語の副助詞「は」と格助詞「が」の関係に類似しているとの指摘がある(柴谷 1989)。これは副助詞「は」が主題標示という機能を担い、統語的に主語的な特性を帯びないと同様に、タガログ語でも主語と主題は区別して考えられるためである。

**【アラインメント】** タガログ語には S, A, P という項の種類と格配列のデフォルトの対応関係が存在しないため、アラインメントという枠組みで語ることはできない。よって、動詞文、形容詞文…などの文の種類、そして、動詞文であれば接辞の種類を基準にタイプ分け

---

<sup>6</sup> タガログ語をベースとした言語がフィリピノ語で、憲法で国語として定められている。名称の違いはあるものの、ほぼ同じだと捉えて良いようである(東京外国語大学言語モジュール <http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/tl/> [2020年1月アクセス])。

<sup>7</sup> 主題は ANG によって導かれる名詞句、SI によって導かれる固有名詞で表される。人称代名詞・指示代名詞が主題になる場合は、標識辞は用いられず、それに対応する変化形をとる(ANG 形と呼ぶ)。グロスではいずれも SPEC と表す。

<sup>8</sup> ANG 形では無い要素(非主題要素)の格標示には属格と斜格がある。属格は主に所有の用法で用いられ、NG 形で標示する。斜格は場所、方向、道具等の意味で文脈に応じて訳されるもので、SA 形で標示する。

を行い、S、A、P の標示方法を表 9 に示した。タイプ数は、①動詞文・行為者焦点接辞、②動詞文・対象焦点接辞、③存在文、④形容詞文、⑤「～が欲しい」などの要求文、の 5 つとした。表 9 の数字はタイプ分け文の通し番号と同じである。

表 9. タガログ語のアライメント（調査回答に限定）

	①	②	③	④	⑤
S	ANG	ANG		ANG	
A	ANG	NG	ANG		NG
P	NG	ANG			NG

**【格】** タガログ語では、NG、SA、PARA SA により格関係が表される。NG は次の名詞句が動作の行為者、目標、道具であることを、SA は場所を、PARA SA は受益者を示す補語である（山田 1989: 581）。

**【文法概要】** タガログ語文法において最も特徴的なのはフィリピン型と呼ばれる文交替システムであり、これは伝統的にフォーカス体系と呼ばれている。フィリピン型言語の記述には「焦点」という用語が用いられる。しかし、言語学一般にいう「談話の焦点」とは異なり、これは、主格標識辞 ANG によってマークされた要素の意味的役割に応じ、動詞に「焦点標示」と呼ばれる要素が標示されることを指す（「ヴォイス（態）」の概念により近いものである）。より具体的には、「焦点接辞による態の標示」にて述べる。以下で、調査回答の理解に必要な項目について 2 点説明する。

まず、名詞句中の語順について、タガログ語にはコピュラがなく、修飾語と被修飾語をつなぐためにはリンカーという連結辞 (-NG または NA<sup>9</sup>) が用いられる。(123)(124) は「SA 形人称代名詞、リンカー、被修飾語」という語順による修飾表現を表す。

- |                    |              |               |
|--------------------|--------------|---------------|
| (123) <i>aking</i> | <i>koste</i> |               |
| <i>aki-ng</i>      | <i>koste</i> |               |
| 1.SG.OBL-LIN       | car          |               |
| 'my car'           |              | [井上 2017: 3a] |

---

<sup>9</sup> リンカーは通常、先行音が母音で終わるならば-NG (N で終わるならば-G)、子音終わりならば NA がとられる。

(124) <i>iyong</i>	<i>kapatid</i>	
iyo- <i>ng</i>	<i>kapatid</i>	
2.SG.OBL-LIN	brother/sister	
'your brother/sister'		[井上 2017: 3b]

次に、動詞について述べる。タガログ語の動詞は、いわゆる「語根」に、アスペクト接辞によって相が、焦点接辞によって主部の意味役割が標示された形で表される。

・アスペクト接辞による相の標示

タガログ語の動詞は時制が無く、動作や状態が未開始か既開始かという「相」 (i) 不定相 IR.PF、 (ii) 未然相 IR.IPF、 (iii) 未完了相 R.IPF、 (iv) 完了相 R.PF の 4 パターンに変化形を取る。

・焦点接辞による態の標示

先に述べたように、フィリピン型言語において伝統的に「焦点」と呼ばれているものは、言語学で一般に「ヴォイス」という術語で指されているものに近い。 (125)(126) はどちらも「マリアが本を買った」という出来事を伝える文であるが、訳文中で下線を付して記した「主題」の置かれる場所が異なる。そのため、使用されている動詞の焦点接辞の種類も異なっている。 (125) のように文全体として「能動態」のような意味が表される場合には行為者を表す名詞句 (この例では '*Maria*') が主題標識辞 ANG/SI によってマークされ、動詞には「行為者焦点」の接辞 (MAG-, -UM-など) が付加される。 (126) のように「受動態」のような意味が表される場合には、行為の対象 (この例では '*the book*') が主題として標示される。この時動詞にも「対象焦点」を示す接辞 (I-, -IN など) が付与される。

(125) B-um-ili	si	Maria	ng	libro.
AV.R.PF.buy	SPEC	Maria	GEN	book

'*Maria* bought the book.' ('It is *Maria* that bought the book.'

[井上 2017: 4a]

(126) B-in-ili	ni	Maria	ang	libro.
AV.R.PF.buy	GEN	Maria	SPEC	book

'The book was bought by *Maria*.' ('It is the book that *Maria* bought.'

[井上 2017: 4b]

焦点の種類には上に述べた (i) 行為者焦点 AV、 (ii) 対象焦点 PV のほかに、 (iii) 方向焦

点 DV、(iv) 場所焦点、(v) 受益者焦点、(vi) 手段・道具焦点、(vii) 原因・理由焦点があるとされる。ある語根がどの焦点接辞を取り得るかはその語根によって異なる。

表 10 は、例文 (125)(126) でとりあげた *bili* の行為者焦点・対象焦点形が、4つの相に変化形をとる様子である。

表 10. *bili* (買う) の相の変化形 (井上 2017: 7: 表 3)

	行為者焦点形	対象焦点形
不定相	<i>b-um-ili</i>	<i>bil-hin</i>
完了相	<i>b-um-ili</i>	<i>b-in-ili</i>
未完了相	<i>b-um-i-bili</i>	<i>b-in-i-bili</i>
未然相	<i>bi-bili</i>	<i>bi-bil-hin</i>

多くの場合で焦点接辞は、語根との意味対応によって使い分けられるとされ、1つに定まるとは限らない。例えば表 10 でとりあげた語根 *bili* は、行為者焦点接辞として MAG-と -UM-を取り、行為者焦点動詞 *mabili*, *bumili* (いずれも不定形、英訳は 'to buy') を作ることが可能である。同じカテゴリー内の焦点接辞の使い分け基準の記述法には議論があり、その区別は一定には定まっていないようである。

#### 6.4.2. 調査回答

以下、タガログ語話者の回答である。1行目に正書法による話者の回答、2行目に形態素表記、3行目にグロス、4行目に英語訳を記した。

(127)

- a. *Araw araw akong pumapasok sa eskwelahan.*  
*araw~araw ako-ng p-um-a-pasok sa eskwelahan*  
*every day 1.SG.SPEC-LIN AV.R.IPF.go OBL school*  
'I go to school every day.'
- b. *Binigyan ko ng panulat si John.*  
*b-in-igyan ko ng panulat si John.*  
*PV.R.PF.give 1.SG.GEN GEN pen SPEC John*  
'I gave a pen to John.'

c.i	<i>Paborito</i>	<i>ni</i>	<i>John</i>	<i>ang</i>	<i>curry.</i>
	paborito	ni	John	ang	curry.
	favorite	GEN	John	SPEC	curry
'John likes carry.'					
c.iii	<i>Narinig</i>	<i>ni</i>	<i>John</i>	<i>ang</i>	<i>boses.</i>
	n-parinig	ni	John	ang	boses.
	AV.R.PF.hear	GEN	John	SPEC	voice
'John heard the voice.' (lit. The voice reached John's ear.)					
c.iv	Gusto	ni	John	ng	sasakyan.
	gusto	ni	John	ng	sasakyan.
	want	GEN	John	GEN	car
'John wants a car.'					
c.v	<i>Naiingit</i>	<i>si</i>	<i>John</i>	<i>sa</i>	
	na-ingit	si	John	sa	
	AV.R.IPF.envy	SPEC	John	OBL.SPEC	
	<i>kanyang</i>	<i>kapatid.</i>			
	kanya-ng	kapatid			
	him-LIN	brother			
'John envies his brother.'					
d.	①	<i>Nagiipon</i>	<i>ako</i>	<i>para</i>	<i>makabili</i>
		nag-i-pon	ako	para	maka-bili
		AV.R.IPF.save	1.SG.SPEC	for	AV.IR.PF.buy
	<i>ng</i>	<i>kotse.</i>			
	ng	kotse			
	GEN	car			
'I save money to buy a car.'					

②	<i>Nag-iipon</i>	<i>ako</i>	<i>upang</i>
	nag-i-pon	ako	upang
	AV.R.IPF.save	1.SG.SPEC	for

<i>makabili</i>	<i>ng</i>	<i>koste.</i>
maka-bili	ng	koste
AV.IR.PF.buy	GEN	car

'I save money to buy a car.'

e.	Bumili	ako	ng	biskleta
	b-um-ili	ako	ng	biskleta
	AV.R.PF.buy	1.SG.SPEC	GEN	bike

para	kay	John.
para	kay	John
for	OBL	John

'I bought a bike for John.'

f.	<i>Masyadong</i>	<i>mainit</i>	<i>ang</i>	<i>kwarto</i>	<i>para</i>	<i>kay</i>	<i>John.</i>
	masyado-ng	ma-init	ang	kwarto	para	kay	John
	many-LIN	ADJR-heat	SPEC	room	for	OBL	John

'This room is too hot for John.'

g.i	<i>May</i>	<i>mahalagang</i>	<i>libro</i>	<i>si</i>	<i>John.</i>
	may	mahalaga-ng	libro	si	John.
	have	important-LIN	book	SPEC	John

'John has a precious book.'

g.ii	<i>Mayroong</i>	<i>sakit</i>	<i>si</i>	<i>John.</i>
	mayroon-ng	sakit	si	John.
	have-LIN	pain	SPEC	John

'John is sick.'

g.iii	Mayroong	kapatid	si	John.
	mayroon-ng	kapatid	si	John.
	have-LIN	brother	SPEC	John
	'John has a brother.'			
g.iv	Mayroong	asulna	mata	si John.
	mayroon-ng	asul-na	mata	si John.
	have-LIN	blue-LIN	eye	SPEC John
	'John has blue eyes.'			
h.i	Kinuha	ko	ang	kamayni John.
	k-in-uh-a	ko	ang	kamay-ni John
	PV.R.PF.get	1.SG.GEN	SPEC	hand-LIN John
	'I took John's hand.'			
h.ii	Mahaba	ang	buhokni	John.
	ma-haba	ang	buhok-i	John
	ADJR-long	SPEC	hair-LIN	John
	'John's hair is long.'			

## 6.5. スペイン語

### 6.5.1. 文法説明

スペイン語は、印欧語族イタリック語派に属する。いわゆるラテン系の言語の一つである。中南米 18 か国の公用語でもあり、アジアでは長らくフィリピンで使われていた。

【基本語順】 〈主語 + 述語〉 である。

(128)	[ <i>Yo</i> ]	[ <i>voy</i>	<i>a</i>	<i>la</i>	<i>escuela</i>	<i>cada</i>	<i>día.</i> ]
	[主語]	[述語]					
	1.SG.NOM	行く.1.SG.NPST	DAT	ART	学校		毎日
	'I go to school every day.'				[筆者の調査データより]		

【アライメント】中立型言語である。S, A, P は全て格標示されない<sup>10</sup>。

- (129) [Jhon]                  *corre.*  
       [S]  
       Jhon                  run.3.SG.PRES  
       'Jhon runs.'                  [作例]

(130) [Maria]                  *vio*                  *el*                  [*libro*].  
       [A]    [P]  
       Mary                  see.3.SG.PST                  ART                  book  
       'Mary saw the book.'                  [Comrie 2013: (1a); 表記一部変更]

【格】主語、目的語の格標示は先に述べた通りである。ここでは *a, ante, bajo, con, contra, de, desde, en, entre, hacia, hasta, para, por, sobre, tras, via* の、16種類の前置詞<sup>11</sup>についてその代表的な意味と例文を載せる。例文は宮城（1957）、福島教隆（2007）、廣康（2016）を参考にした。グロス表記は筆者による。

'a' は、場所、時、目的など、その他多様な意味を持つ。和訳では「～に」なりやすい。

- (131) 【a】  
 Voy a Espana.  
 行く .1.SG.PRES DAT スペイン  
 「私はスペインに行く。」 [福島 2007: 33]

<sup>10</sup> P が有生かつ特定可能な場合、前置詞 a が P を標示する。例えば、'Maria vio a Juan.' (Mary saw John.) がそれに該当する（これは、いわゆる Differential Object Marking によるものである）。本論文では、有生性階層が最下位の〈無生物〉が P となる (130) のような文を典型的な他動詞文とし、スペイン語は中立型言語である見方に立っている。

<sup>11</sup> 前置詞とする形態素の数にはばらつきがあるようである。宮城（1957）、廣康（2016）参照。

'ante' は、場所・相手・動作の対象を示す。「～の前で」といった意味である。

(132) 【ante】

Se	arrodillo	ante	el	rey.
REF.3.SG	跪かせる.3.SG.PST	前.LOC	ART	王
「彼は王の面前でひざまずいた。」				[宮城 1957: 226]

'bajo' は、場所・様態を示す。「～の下で」といった意味である。

(133) 【bajo】

El	termometro	marca	5grados	bajo	cero.
ART	温度計	指す.3.SG.PRES	5 度	下.LOC	0
「温度計は零下 5 度を示している。」				[宮城 1957: 226]	

'con' は、随伴・付加、理由・原因、手段・道具などを示す。「～と、～で」といった意味である。

(134) 【con】 随伴

cafe	con	leche
コーヒー	COM	ミルク
「ミルクを伴ったコーヒー (カフェオレ)」		
[福島 2007: 33]		

(135) 【con】 手段・道具

La	mancha	se	quita	con	leche.
ART	染み	REF.3.SG	取り除く.3.SG.PRES	INST	牛乳
「染みは牛乳でとれるよ。」				[廣康 2016: 259]	

'contra' は、相手・動作の対象を示す。「～に対して、～へ向けて」といった意味になる。

(136) 【contra】

Navegaron	contra	el	viento.
航海する.3PL.PST	ALL	ART	風
「彼らは風に逆らって航海した。」			[宮城 1957: 227]

'de' は、所有、場所などを示す。「～の」「～から」といった意味になる。

(137) 【de】 所有

la	casa	de	Goro
ART	家	GEN	吾郎
「吾郎の家」			[福島 2007: 33]

(138) 【de】 場所の起点

Soy	de	Japon.
COP.1.SG.PST	ABL	日本
「私は日本から来た。」		[福島 2007: 33]

'desde' は、場所、時、起源などを示す。「～から」という意味を持つ。

(139) 【desde】

Desde	anoche	esta	lloviendo.
ABL	昨夜	COP.3.SG.PRES	降る.PP
「昨夜から雨が降っている。」			[宮城 1957: 227]

'en' は、場所、時、手段・道具などを示す。「～の中に、～で」という意味を持つ。

(140) 【en】

Esta	en	casa.
COP.3.SG.PRES	中.LOC	家
「彼は家にいる。」		[宮城 1957: 225]

'entre' は、間、比較の対象、場所などを示す。(141) では、「～の間に」という意味を持つ。

(141) 【entre】

Estaba	sentada	entre	el	y	yo.
COP.3.SG.PST	座る.3.SG.PST	between	3.SG	COM	1.SG
「彼女は彼と私の間に腰かけていた。」					[宮城 1957: 229]

'hacia' は、場所、時、動作の対象を示す。 (142) では、「～の方面に」という意味を持つ。

(142) 【hacia】

El	edificio	esta	hacia	el	sur.
ART	建物	COP.3.SG.PRES	ALL	ART	南
「その建物は南の方に面している。」					[宮城 1957: 227]

'hasta' は、場所、時を示す。「～まで」という意味を持つ。

(143) 【hasta】

Te	espere	haste	las	cinco.
2.SG	待つ.1.SG.PST	LIM	ART	5 時
「私は五時まで君を待った。」				

'para' は、目的、相手・動作の対象を示す。「～のために」という意味が多い。

(144) 【para】

Es	para	Goro.
COP.3.SG.PRES	ため	吾郎
「それは吾郎のためのものだ。」		[福島 2007: 33]

'por' は、手段・道具、理由・原因などを示す。(145) は、「～によって」という意味である。

(145) 【por】

por	avion
INST	飛行機
「飛行機によって」	

[福島 2007: 33]

'sobre' は、場所、随伴・付加を示す。 (146) は、「～の上に」という意味である。

(146) 【sobre】

El	florero	esta	sobre	la	mesa.
ART	花瓶	be.3.SG.PRES	～の上に	ART	テーブル
「花瓶はテーブルの上にある。」					[宮城 1957: 226]

'tras' は、場所、時を示す。「～の後ろに、～末に」という意味である。

(147) 【tras】

Se	oculto	tras	la	puerta.
REF.3.SG	隠す.3.SG.PST	～の後ろに	ART	ドア
「彼は戸の後ろに隠れた。」				

'via' は、手段・道具を示す。「～経由で」という意味である。

(148) 【via】

via	satelite				
～経由で	人工衛星				
「人工衛星経由で」					[廣康 2016: 259]

### 6.5.2. 調査回答

以下、スペイン語話者の回答である。一行目に正書法による話者の回答、二行目にグロス、三行目に英語訳を記した。

(149)

a.	Yo	voy	a	la	escuela	cada	día.
	1.SG.NOM	go.1.SG.PRES	DAT	ART	school	every day	
'I go to school every day.'							

b.	Yo	le	di	a	Maria	un	bolígrafo.
	1.SG.NOM	her	give.1.SG.PST	DAT	Maria	ART	pen
'I gave a pen to Maria.'							

- c.i      *A María le gusta el curry.*  
           DAT Maria her like.3.SG.PRES ART currry  
           'Maria likes curry.'
- c.iii     *María escuchó la voz.*  
           Maria hear.3.SG.PST ART voice  
           'Maria heard the voice.'
- c.iv      *María quiere un coche.*  
           Maria want.3.SG.PRES ART car  
           'Maria wants a car.'
- c.v      *María envidia a su hermana.*  
           Maria envy.3.SG.PRES DAT her sister  
           'Maria envies her sister.'
- d.       *Yo ahorro dinero para comprar coche.*  
           1.SG.NOM save.1.SG.PRES money for buy.INF  
           car  
           'I save money to buy a car.'
- e.       *Yo compré una bicicleta para María.*  
           1.SG.NOM buy.1.SG.PST ART bike for Maria  
           'I bought a bike for Maria.'
- f.       *En esta habitación hace mucho calor para María.*  
           in DEM room do.3.SG.PRES many  
           heat for Maria  
           'This room is too hot for Maria.'

g.i	<i>María</i>	<i>tiene</i>	<i>un</i>	<i>libro</i>	<i>precioso.</i>
	Maria	have.3.SG.PRES	ART	book	precious
'Maria has a precious book.'					
g.ii	<i>María</i>	<i>está</i>	<i>enferma.</i>		
	Maria	be.3.SG	sick		
'Maria is sick.'					
g.iii	<i>María</i>	<i>tiene</i>	<i>una</i>	<i>hermana.</i>	
	Maria	have.3.SG.PRES	ART	sister	
'Maria has a sister.'					
g.iv	<i>María</i>	<i>tiene</i>	<i>los</i>	<i>ojos</i>	<i>azules.</i>
	Maria	have.3.SG.PRES	ART	eye.PL	blue.PL
'Maria has blue eyes.'					
h.i	<i>Yo</i>	<i>cogí</i>	<i>las</i>	<i>manos</i>	<i>de</i>
	1.SG.NOM	took.1.SG.PST	ART	hand.PL	GEN
'I took Maria's hands.'					
h.ii	<i>El</i>	<i>pelo</i>	<i>de</i>	<i>María</i>	<i>es</i>
	ART	hair	GEN	Maria	be.3.SG.PRES
'Maria's hair is long.'					

## 参照文献

- 相原茂・石田知子・戸沼市子 (2016) 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』東京: 同学社.
- Comrie, Bernard (2013) Alignment of Case Marking of Full Noun Phrases. <http://wals.info/chapter/98> [accessed January 2020].
- 海老原志穂 (2019) 『アムド・チベット語文法』東京: ひつじ書房.
- 福島教隆 (2007) 『ニューエクスプレス スペイン語』東京: 白水社.
- Georg, Stefan (2007) *A Descriptive Grammar of Ket*. Folkstone: Global Oriental.
- Guillaume, Antoine (2008) *A Grammar of Cavinena*. Berlin · New York: Mouton de Gruyter.
- 原田芳起 (1953) 『熊本方言の研究』熊本: 日本談義社.
- Haspelmath, Martin (1993) *A Grammar of Lezgian*. Berlin · New York: Mouton de Gruyter.
- Haspelmath, Martin (2003) The Geometry of Grammatical Meaning: Semantic Maps and Cross-Linguistic Comparison. In: Michael Tomasello (ed.) *The new psychology of Language, volume2*, 211-242. New Jersey: Lawrence Erlbaum Associates.
- 廣康好美 (2016) 『NHK 出版 これならわかるスペイン語文法 入門から上級まで』東京: NHK 出版.
- Hosokawa, Komei (1991) The Yawuru language of West Kimberley: a meaning-based description. Doctoral dissertation, The Australian National University Canberra.
- 井上千絃 (2017) 「タガログ語における接辞PAGを伴う動詞語根の名詞化に関する諸現象」 学士論文, 九州大学.
- 石塚政行 (2015) 「意味役割」 斎藤純男・田口善久・西村義樹 (編) 『明解言語学辞典』 12. 東京: 三省堂.
- 風間信次郎 (2002) 『ネギダール語 テキストと文法解説』 大阪: 大阪学院大学情報学部.
- Keidan, Artemij (2009) Predicative possessive constructions in Japanese and Korean In: Serra, Fabrizio (ed) *Rivista degli studi orientali*, 339-368. Pisa · Roma: Istituti editoriali e poligrafici internazionali.
- 宮城昇 (1957) 『Lo elemental de Gramatica Espanola 基礎スペイン語文法』 東京: 白水社.
- 森口恒一 (1985) 『ピリピノ語(タガログ語)文法』 東京: 大学書林.
- 中山恒夫 (2007) 『古典ラテン語文典』 東京: 白水社.
- 長屋尚典 (2015) 「格」 斎藤純男・田口善久・西村義樹 (編) 『明解言語学辞典』 32-33. 東京: 三省堂.
- 仁田義雄 (2009) 『現代日本語文法2』 東京: くろしお出版.
- 野間秀樹・金陳娥 (2007) 『ニューエクスプレス 韓国語』 東京: 白水社.
- 朴在權 (1997) 『現代日本語・韓国語の格助詞の比較研究』 東京: 勉誠社.

Deal, Amy Rose (2013) External Possession and Possessor Raising In: Everaert, Martin and van Riemsdijk, Henk (eds) *The Companion to Syntax, 2nd edition*, 1-27. New jersey: Wiley-Blackwell.

坂井美日 (2019) 「熊本市方言の格配列と自動詞分裂」竹内史郎・下地理則 (編) 『日本語の格標示と分裂自動詞性』 37-66. 東京: くろしお出版.

佐々木冠 (2019) 「格」 木部暢子 (編) 『明解方言額辞典』 31-32. 東京: 三省堂.

柴谷方良 (1989) 「言語類型論」 『英語学体系 6 英語学の関連分野』 東京: 大修館書店.

Stassen, Leon (2013) Predicative Possession. <http://wals.info/chapter/117> [accessed January 2020].

Terrill, Schrock (2014) A grammar of Ik (Ice-tod) : Northeast Uganda's last thriving Kuliak language. Doctral dissertation, Universiteit Leiden.

角田太作 (2009) 『世界の言語と日本語 言語類型論から見た日本語 改訂版』 東京: くろしお出版.

山田幸宏 (1989) 「タガログ語」 亀井孝・河野六郎・千野栄一 (編) 『言語学大辞典 第2巻 世界言語編 (中)』 578-591. 東京: 三省堂.

## グロス一覧

-		接辞境界
=		接語境界
~		重複形内の境界
1,2,3		1 人称、2 人称、3 人称
A	animate	有生
ABL	ablative	奪格
ACC	accusative	対格
ADJR	adjectivalizer	形容詞化
ADN	adnominal	連体
ALL	allative	方向格
ART	article	冠詞
AV	actor voice	行為者焦点
CLF	classifier	類別詞
COM	comitative	共同格
COP	copula	コピュラ
DAT	dative	与格
DEM	demonstrative	指示詞
DES	desirous	希望
DIM	diminutive	指小辞
DSC	discourse marker	談話小辞
FMN	formal noun	形式名詞
GEN	genitive	属格
HON	honorific	尊敬
HS	hesrsay	伝聞
IA	inanimate	無性
INF	infinitive	不定
INFR	inferential	推量
INST	instrumental	具格
IPF	imperfective	非完了 (不定相、未完了相に相当)
IR	irrealis	非現実 (不定相、未然相に相当)
LIM	limitative	限界格
LIN	linker	リンカー
LOC	locative	場所格

NEG	negation	否定
NMLZ	nominalization	名詞化
NOM	nominative	主格
NPST	non past	非過去
OBL	oblique	斜格
PASS	passive	受動
PF	perfective	完了 (完了相、未然相に相当)
PFV	perfertive?	完了
PL	plural	複数
PP	present particle	現在分詞
PRES	present	現在
PROG	progressive	継続相
PROSP	prospective	展望
PST	past	過去
PURP	purpose	目的
PV	patient voice	対象焦点
Q	question particle / marker	疑問助辞／標識
QT	quotive	引用
R	realis	現実 (完了相、未完了相に相当。)
REASON	reason	理由
REF	reflexive	再帰
RES	resultative	結果
SEQ	sequential	継起
SG	single	单数
SPEC	specific	特定
THM	thematic vowel	語幹母音
TOP	topic	主題
VBLZ	verbalizer	動詞化
VOL	volitional	意志

## 謝辞

本稿の執筆にあたり、指導教官の下地理則准教授からは多大な助言を賜りました。深く感謝申し上げます。お忙しい中お時間を作っていただき、私の質問に真摯に対応していただきました。さらに、調査に協力してくださった九州大学留学生の方々、助言を与えてくださった九州大学文学部人文学科言語学・応用言語学研究室の仲間や先輩方にも感謝の意を表します。

皆様、誠にありがとうございました。